岸和田市
中学校における昼食に関する
市民意識アンケート
調査結果報告書

岸和田市

目次

第１部　調査概要 1
１．調査の目的 1
２．調査の設計 1
３．回収状況 1
４．報告書を読む上での注意事項 1
第２部　調査結果 2
１．回答者の属性について 2
■　性別 2
■　学年・年齢 2
■　地区 3
２．食生活について 4
３．食育について 8
４．学校給食の現状と経験について 10
５．スクールランチについて 12
６．中学校における昼食について 17
■　中学校の昼食について 17
■　家庭弁当と学校給食について 20
■　中学校での学校給食実施について 24
第３部　まとめ 30

第１部　調査概要

１．調査の目的

中学生の健全な食生活をいっそう推進していくにあたり、改めてスクールランチの検証を行うとともに、中学生の食生活の状況を把握し、中学校給食実施も含めた昼食のあり方を検討することを目的とする。

２．調査の設計

（１）調査対象

対　象	対象者数
小学生（全校 5、6 年生　各 1 クラス）	1,465 人
中学生（全校 1、2 年生　各 3 クラス）	2,175 人
市民（無作為抽出）	2,008 人
小学生保護者（上記保護者）	1,465 人
中学生保護者（上記保護者）	2,193 人
小学校教職員	767 人
中学校教職員	403 人
合　計	10,476 人

（２）調査方法及び調査期間

調査方法　　市民については郵送による配付・回収、その他は学校を通じての配布・回収

調査期間　　平成 22 年 8 月 30 日から同年 9 月 21 日まで。

３．回収状況

対　象	有効回答数	回収率
小学生（全校 5、6 年生　各 1 クラス）	1,448 人	98.8%
中学生（全校 1、2 年生　各 3 クラス）	2,127 人	97.8%
市民（無作為抽出）	1,195 人	59.5%
小学生保護者（上記保護者）	1,376 人	93.9%
中学生保護者（上記保護者）	1,682 人	76.7%
小学校教職員	678 人	88.4%
中学校教職員	343 人	85.1%
合　計	8,849 人	84.5%

４．報告書を読む上での注意事項

（１）グラフ中の「N」はその項目における回答者を合計した実数値であり、比率算出の基数となる。

（２）比率については小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率が 0.05 未満の場合には 0.0 で表している。また、この四捨五入のため各比率の合計が 100%に合致しない場合がある。

（３）複数回答を求めた質問では、回答者数を基数として比率算出を行っているため、比率計は 100%を超える。

（４）グラフ中の「無回答」とは、その設問における無回答者および無効回答者である。

第２部　調査結果

１．回答者の属性について

■　性別

小学生、中学生、市民、小学生保護者、中学生保護者、小学校教職員、中学校教職員	問１

小学生・中学生・中学校教職員では、やや男性の割合が高いものの、ほぼ男女比は同率であった。市民・小学校教職員では、女性が男性の約２倍になっている。小学生保護者・中学生保護者では、９割以上が女性となっている。

（性別）

	小学生		中学生		市民		小学生保護者	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男性	742	51.2	1,100	51.7	434	36.3	57	4.1
女性	700	48.3	1,001	47.1	757	63.3	1,318	95.8
無回答	6	0.4	26	1.2	4	0.3	1	0.1
合計	1,448	100.0	2,127	100.0	1,195	100.0	1,376	100.0

	中学生保護者		小学校教職員		中学校教職員		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男性	91	5.4	213	31.4	179	52.2	2,816	31.8
女性	1,574	93.6	465	68.6	161	46.9	5,976	67.5
無回答	17	1.0	0	0.0	3	0.9	57	0.6
合計	1,682	100.0	678	100.0	343	100.0	8,849	100.0

■　学年・年齢

小学生、中学生、市民、小学校教職員、中学校教職員	問２
小学生保護者、中学生保護者	問２、３

小学生では５、６年生を、中学生では１、２年生を対象としているが、回答者の割合はほぼ同率であった。市民では60歳代、小学生保護者・中学生保護者では40歳代、小学校教職員・中学校教職員では50歳代の割合が高くなっている。

（学年）

	小学生			中学生	
	件数	%		件数	%
5年生	694	47.9	1年生	1,051	49.4
6年生	748	51.7	2年生	1,047	49.2
無回答	6	0.4	無回答	29	1.4
合計	1,448	100.0	合計	2,127	100.0

（子どもの学年）

	小学生保護者			中学生保護者	
	件数	%		件数	%
5年生	664	48.3	1年生	858	51.0
6年生	698	50.7	2年生	801	47.6
無回答	14	1.0	無回答	23	1.4
合計	1,376	100.0	合計	1,682	100.0

（年齢）

	市民	
	件数	%
高校生	29	2.4
20歳未満（高校生以外）	29	2.4
20歳代	181	15.1
30歳代	186	15.6
40歳代	200	16.7
50歳代	194	16.2
60歳代	209	17.5
70歳代以上	161	13.5
無回答	6	0.5
合計	1,195	100.0

	小学生保護者		中学生保護者		小学校教職員		中学校教職員	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
20歳代	21	1.5	7	0.4	155	22.9	83	24.2
30歳代	661	48.0	533	31.7	128	18.9	75	21.9
40歳代	662	48.1	1,066	63.4	120	17.7	57	16.6
50歳代	21	1.5	52	3.1	267	39.4	119	34.7
60歳代以上	8	0.6	6	0.4				
無回答	3	0.2	18	1.1	8	1.2	9	2.6
合計	1,376	100.0	1,682	100.0	678	100.0	343	100.0

■　地区

小学生、中学生、市民、小学校教職員、中学校教職員	問 3
小学生保護者、中学生保護者	問 4

回答者の地区の割合は以下の通りとなっている。

（小学校区）

	小学生		小学生保護者		小学校教職員	
	件数	%	件数	%	件数	%
中央	45	3.1	43	3.1	18	2.7
城内	72	5.0	63	4.6	46	6.8
浜	56	3.9	57	4.1	14	2.1
朝陽	58	4.0	59	4.3	33	4.9
東光	74	5.1	74	5.4	31	4.6
旭	73	5.0	69	5.0	52	7.7
太田	56	3.9	55	4.0	32	4.7
天神山	42	2.9	40	2.9	12	1.8
修斉	22	1.5	18	1.3	17	2.5
東葛城	35	2.4	35	2.5	13	1.9
春木	65	4.5	50	3.6	29	4.3
大芝	65	4.5	67	4.9	37	5.5
大宮	68	4.7	46	3.3	33	4.9
城北	69	4.8	63	4.6	24	3.5
新条	66	4.6	65	4.7	28	4.1
八木北	65	4.5	65	4.7	25	3.7
八木	67	4.6	66	4.8	31	4.6
八木南	76	5.2	72	5.2	34	5.0
光明	75	5.2	73	5.3	22	3.2
常盤	67	4.6	64	4.7	41	6.0
山直北	74	5.1	70	5.1	44	6.5
城東	57	3.9	55	4.0	21	3.1
山直南	54	3.7	53	3.9	20	2.9
山滝	39	2.7	39	2.8	11	1.6
無回答	8	0.6	15	1.1	10	1.5
合計	1,448	100.0	1,376	100.0	678	100.0

（中学校区）

	市民		中学生		中学生保護者		中学校教職員	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
岸城	180	15.1	223	10.5	156	9.3	33	9.6
光陽	81	6.8	204	9.6	162	9.6	28	8.2
野村	55	4.6	188	8.8	116	6.9	20	5.8
桜台	98	8.2	205	9.6	161	9.6	35	10.2
葛城	144	12.1	181	8.5	155	9.2	27	7.9
土生	93	7.8	210	9.9	176	10.5	39	11.4
久米田	132	11.0	204	9.6	148	8.8	41	12.0
山直	126	10.5	205	9.6	175	10.4	48	14.0
春木	117	9.8	199	9.4	157	9.3	18	5.2
北	65	5.4	201	9.4	183	10.9	36	10.5
山滝	90	7.5	79	3.7	76	4.5	12	3.5
無回答	14	1.2	28	1.3	17	1.0	6	1.7
合計	1,195	100.0	2,127	100.0	1,682	100.0	343	100.0

２．食生活について

小学生、中学生	問 4～6
小学生保護者、中学生保護者	問 5

日頃の食生活については、『朝食・昼食・夕食の 3 食をきちんと食べるように心がけている』との回答が中学生 73.0%、小学生保護者 85.0%、中学生保護者 82.4%で最も割合が高くなっており、小学生でも 80.9%と『「いただきます」「ごちそうさま」を言っている』86.6%に次いで高い割合となっている。

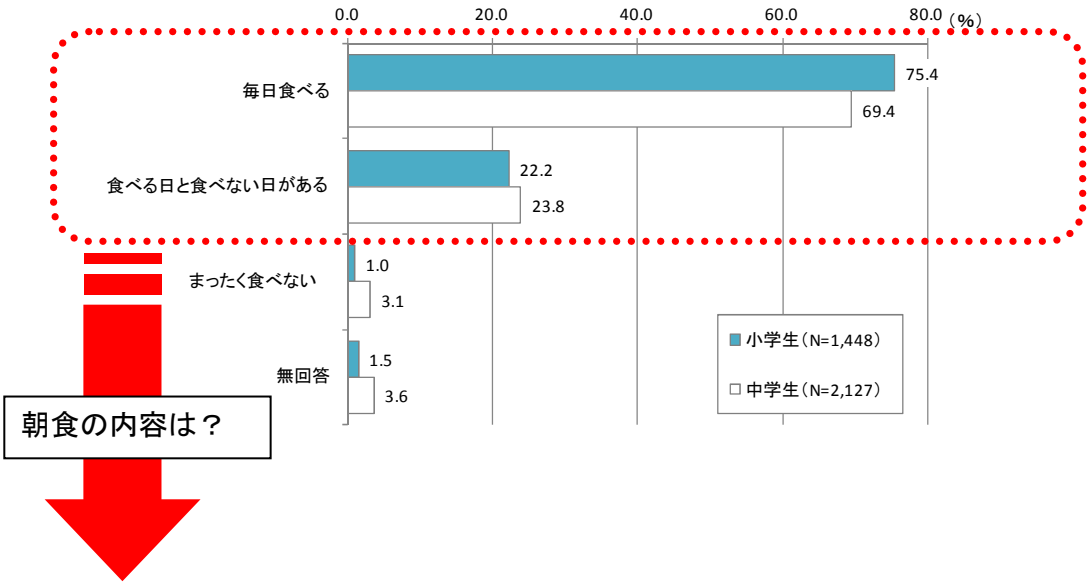
一方、『食事のときはテレビや本を見ながら食べている』割合が子どもと保護者いずれも 60%前後と同傾向にあるほか、子どもの朝食の摂取状況では、『食べる日と食べない日がある』、『まったく食べない』との回答の合計が、小学生、中学生ともに 2 割以上となっていたなど、食生活の課題もみられた。

また、日頃の食事の状況を朝食の摂取状況別にみると、朝食を『毎日食べる』と回答した児童・生徒は、『朝ごはん（朝食）・昼ごはん（昼食）・晩ごはん（夕食）の 3 食をきちんと食べるように心がけている』との回答が高い割合になっていた。一方、朝食を『食べる日と食べない日がある』、『まったく食べない』と回答した小学生は『テレビや本を見ながら食べている』、『ジュースやおかしをよく食べている』という傾向がみられたが、中学生では朝食を『毎日食べる』と回答した生徒であっても『テレビや本を見ながら食べている』という回答が 6 割を超えていた。

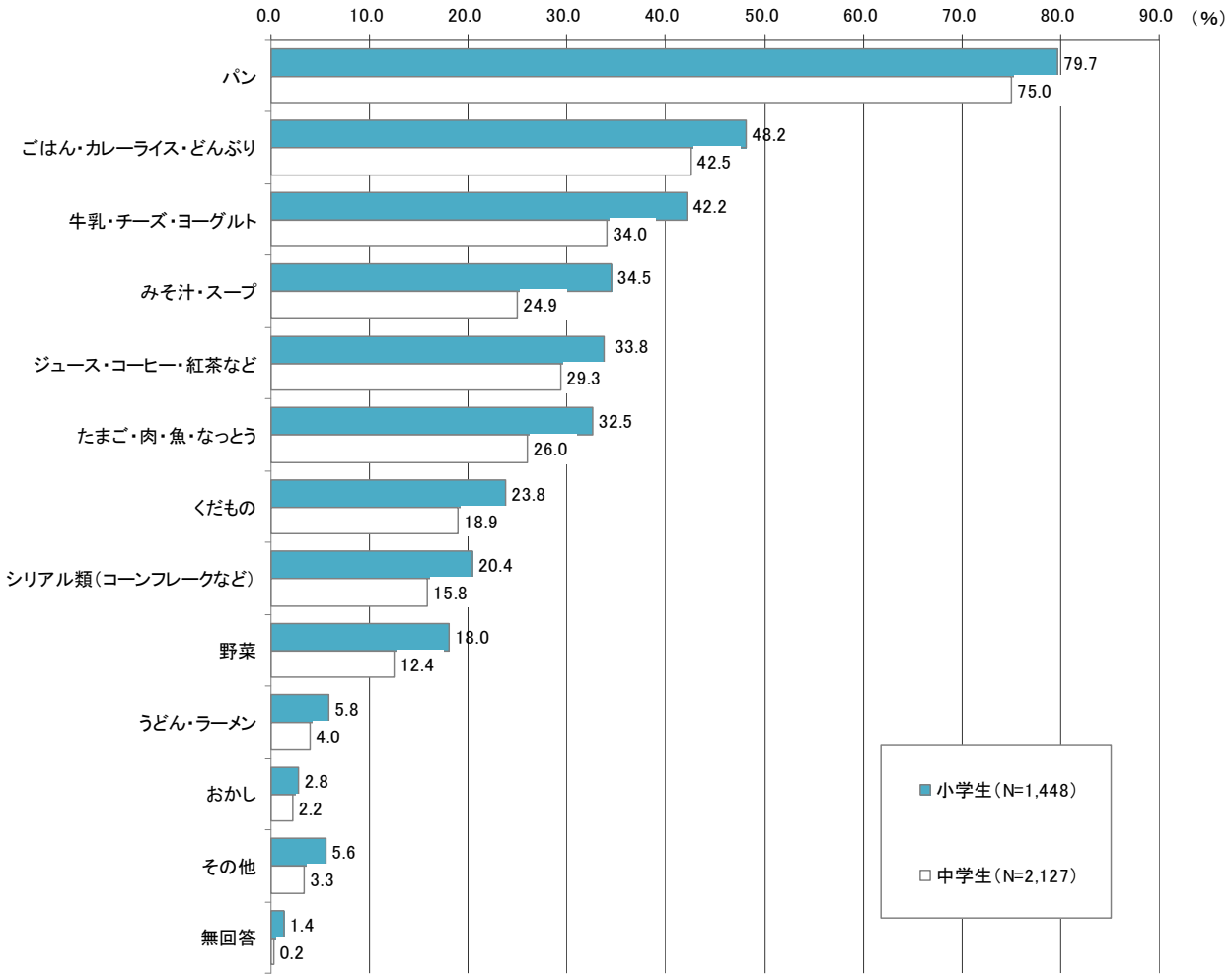
（日頃の食事の状況　※複数回答）

	小学生（N=1,448）		中学生（N=2,127）		小学生保護者（N=1,376）		中学生保護者（N=1,682）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
食事を楽しんでいる	897	61.9	1,310	61.6	919	66.8	1,090	64.8
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	1,254	86.6	1,551	72.9	1,107	80.5	1,249	74.3
ゆっくりよくかんで食べている	503	34.7	624	29.3	370	26.9	478	28.4
食事のときはテレビや本を見ながら食べている	835	57.7	1,354	63.7	855	62.1	1,078	64.1
行儀よく食べている	518	35.8	677	31.8	349	25.4	486	28.9
好きなものを多く食べている	580	40.1	790	37.1	754	54.8	852	50.7
栄養のバランスに気をつけて食べている	570	39.4	715	33.6	458	33.3	526	31.3
出されたものは残さず食べている	826	57.0	1,252	58.9	790	57.4	1,037	61.7
好き嫌いをなくすよう心がけている	755	52.1	961	45.2	718	52.2	732	43.5
朝食・昼食・夕食の3食をきちんと食べるように心がけている	1,171	80.9	1,552	73.0	1,170	85.0	1,386	82.4
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	254	17.5	456	21.4	417	30.3	573	34.1
ジュースやおかしをよく食べている	567	39.2	942	44.3	528	38.4	645	38.3
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	300	20.7	696	32.7	173	12.6	287	17.1
無回答	6	0.4	62	2.9	1	0.1	15	0.9
合計	9,036	624.0	12,942	608.5	8,609	625.7	10,434	620.3

（朝食の摂取状況）



（朝食の内容　※複数回答）



（日頃の食事の状況【朝食の摂取状況とのクロス集計】）

○小学生

	毎日食べる	
	件数	%
朝ごはん・昼ごはん・晩ごはんの3食をきちんと食べるように心がけている	988	90.5
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	959	87.8
食事を楽しんでいる	697	63.8
出されたものは残さず食べている	652	59.7
テレビや本を見ながら食べている	616	56.4
好ききらいをなくすよう心がけている	597	54.7
栄養のバランスに気をつけて食べている	460	42.1
好きなものを多く食べている	431	39.5
行儀よく食べている	406	37.2
ゆっくりよくかんで食べている	403	36.9
ジュースやおかしをよく食べている	399	36.5
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	191	17.5
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	179	16.4
無回答	2	0.2
N	1,092	100.0

	食べる日と食べない日がある	
	件数	%
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	270	84.1
テレビや本を見ながら食べている	200	62.3
食事を楽しんでいる	176	54.8
朝ごはん・昼ごはん・晩ごはんの3食をきちんと食べるように心がけている	166	51.7
出されたものは残さず食べている	157	48.9
ジュースやおかしをよく食べている	147	45.8
好ききらいをなくすよう心がけている	145	45.2
好きなものを多く食べている	133	41.4
行儀よく食べている	101	31.5
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	100	31.2
栄養のバランスに気をつけて食べている	98	30.5
ゆっくりよくかんで食べている	91	28.3
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	68	21.2
無回答	1	0.3
N	321	100.0

	まったく食べない	
	件数	%
食事を楽しんでいる	11	78.6
テレビや本を見ながら食べている	9	64.3
ジュースやおかしをよく食べている	9	64.3
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	8	57.1
好きなものを多く食べている	7	50.0
出されたものは残さず食べている	6	42.9
好ききらいをなくすよう心がけている	4	28.6
ゆっくりよくかんで食べている	3	21.4
行儀よく食べている	3	21.4
栄養のバランスに気をつけて食べている	3	21.4
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	3	21.4
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	2	14.3
朝ごはん・昼ごはん・晩ごはんの3食をきちんと食べるように心がけている	1	7.1
無回答	0	0.0
N	14	100.0

○中学生

	毎日食べる	
	件数	%
朝食・昼食・夕食の3食をきちんと食べるように心がけている	1,319	89.3
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	1,148	77.7
食事を楽しんでいる	971	65.7
出されたものは残さず食べている	954	64.6
テレビや本を見ながら食べている	931	63.0
好き嫌いをなくすよう心がけている	739	50.0
ジュースやおかしをよく食べている	645	43.7
栄養のバランスに気をつけて食べている	555	37.6
好きなものを多く食べている	536	36.3
行儀よく食べている	525	35.5
ゆっくりよくかんで食べている	471	31.9
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	442	29.9
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	310	21.0
無回答	14	0.9
N	1,477	100.0

	食べる日と食べない日がある	
	件数	%
テレビや本を見ながら食べている	353	69.6
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	335	66.1
食事を楽しんでいる	284	56.0
出されたものは残さず食べている	254	50.1
ジュースやおかしをよく食べている	244	48.1
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	207	40.8
好きなものを多く食べている	205	40.4
朝食・昼食・夕食の3食をきちんと食べるように心がけている	202	39.8
好き嫌いをなくすよう心がけている	191	37.7
栄養のバランスに気をつけて食べている	133	26.2
行儀よく食べている	129	25.4
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	124	24.5
ゆっくりよくかんで食べている	123	24.3
無回答	11	2.2
N	507	100.0

	まったく食べない	
	件数	%
テレビや本を見ながら食べている	44	66.7
「いただきます」「ごちそうさま」を言っている	38	57.6
ジュースやおかしをよく食べている	36	54.5
食事を楽しんでいる	31	47.0
コンビニやファーストフード店などをよく利用する	30	45.5
好きなものを多く食べている	27	40.9
出されたものは残さず食べている	25	37.9
好き嫌いをなくすよう心がけている	19	28.8
「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる	17	25.8
ゆっくりよくかんで食べている	14	21.2
行儀よく食べている	9	13.6
栄養のバランスに気をつけて食べている	9	13.6
朝食・昼食・夕食の3食をきちんと食べるように心がけている	3	4.5
無回答	0	0.0
N	66	100.0

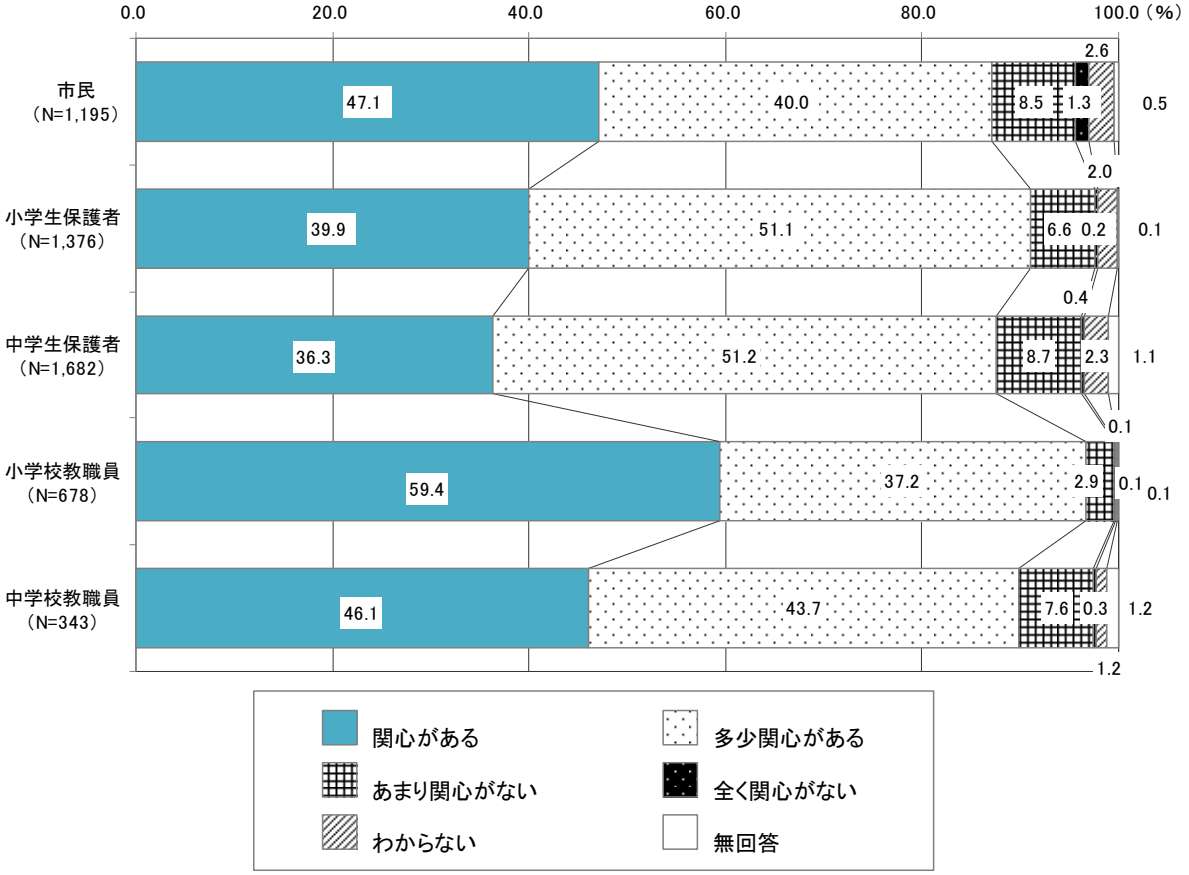
３．食育について

市民、小学校教職員、中学校教職員	問 4～6
小学生保護者、中学生保護者	問 6～8

食育について『関心がある』、『多少関心がある』との回答は、市民、保護者、教職員のいずれも合計約 9 割を占めており、特に小学校教職員では、『関心がある』59.4%、『多少関心がある』37.2%の合計 96.6%と 100%に近い割合となっている。

食育のイメージは、『1 日 3 食、規則正しく食べること』、『食べ物を粗末にしないこと』、『「いただきます」「ごちそうさま」など感謝の意をあらわすこと』の割合が高く、食育の実施場所については「家庭」との回答の割合が圧倒的に高かった。

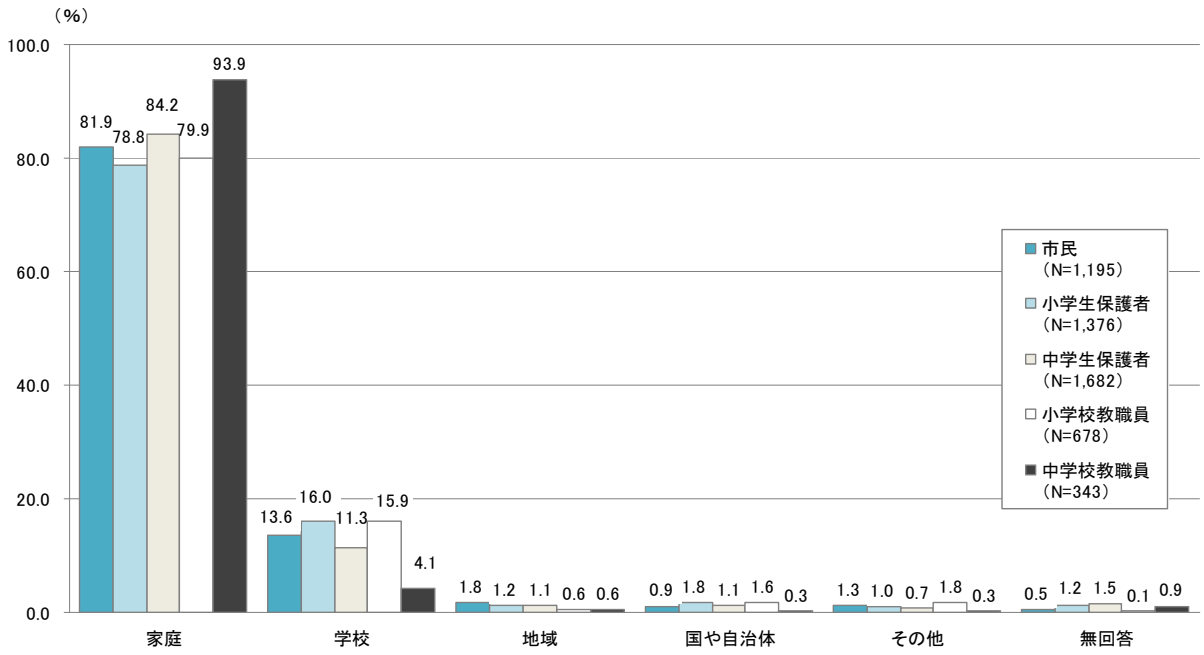
（食育に対する関心）



（食育のイメージ　※複数回答）

	市民（N=1,195）		小学生保護者（N=1,376）		中学生保護者（N=1,682）		小学校教職員（N=678）		中学校教職員（N=343）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日3食、規則正しく食べること	998	83.5	1,192	86.6	1,456	86.6	580	85.5	288	84.0
安全な食品の知識や選び方を学ぶこと	551	46.1	626	45.5	749	44.5	412	60.8	189	55.1
食べ物の栄養について学ぶこと	627	52.5	856	62.2	963	57.3	454	67.0	186	54.2
「いただきます」「ごちそうさま」など感謝の意をあらわすこと	871	72.9	1,070	77.8	1,233	73.3	506	74.6	227	66.2
家族や友人と一緒に楽しく食べること	703	58.8	985	71.6	1,162	69.1	448	66.1	184	53.6
食べ物を粗末にしないこと	896	75.0	1,157	84.1	1,346	80.0	535	78.9	248	72.3
好き嫌いをなくすこと	644	53.9	822	59.7	980	58.3	369	54.4	120	35.0
食事のマナーを学ぶこと	609	51.0	845	61.4	945	56.2	433	63.9	184	53.6
季節や行事の食文化を知ること	531	44.4	764	55.5	837	49.8	391	57.7	150	43.7
よくわからない	18	1.5	18	1.3	17	1.0	1	0.1	4	1.2
無回答	6	0.5	2	0.1	15	0.9	1	0.1	3	0.9
合計	6,454	540.1	8,337	605.9	9,703	576.9	4,130	609.1	1,783	519.8

（食育の実施場所）



４．学校給食の現状と経験について

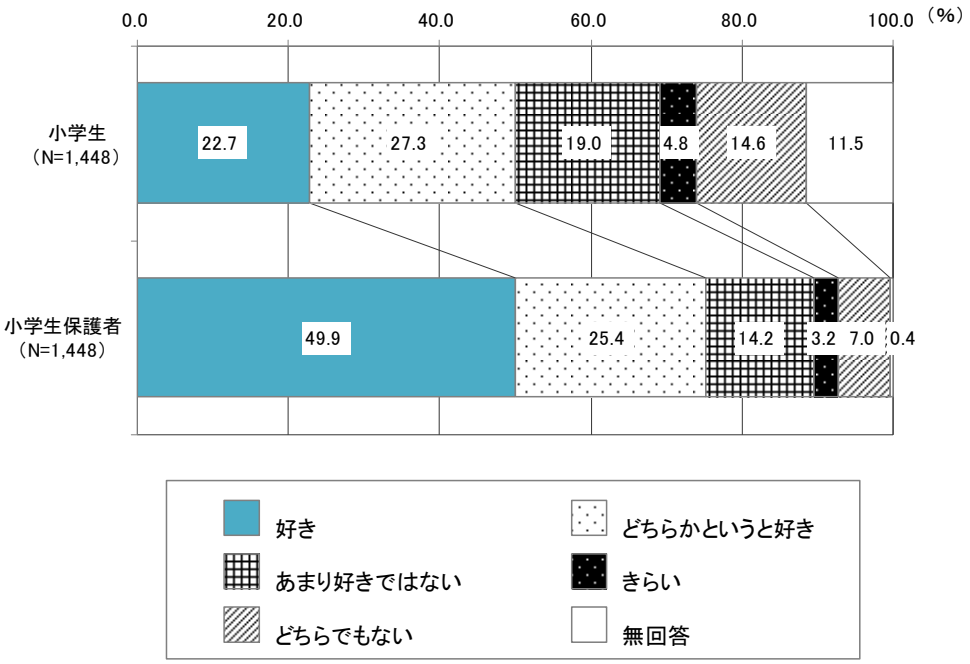
小学生	問 7～9
中学生	問 17
市民	問 12

小学生保護者	問 15, 16
中学生保護者	問 22
小学校教職員	問 13
中学校教職員	問 18

学校給食が好きか嫌いかをみると、小学生では、『好き』、『どちらかというと好き』が合計 50.0%であるのに対し、小学生保護者の回答では合計 75.3%が、子どもは給食が『好き』であると回答している。また、小学生のうち、41.1%は給食を『残さない』と回答しているが、約 6 割は『残す』もしくは『へらす』と回答している。理由としては、『量が多いから』、『きらいなおかずだから』、『食べる時間が短いから』の回答が多くみられた。

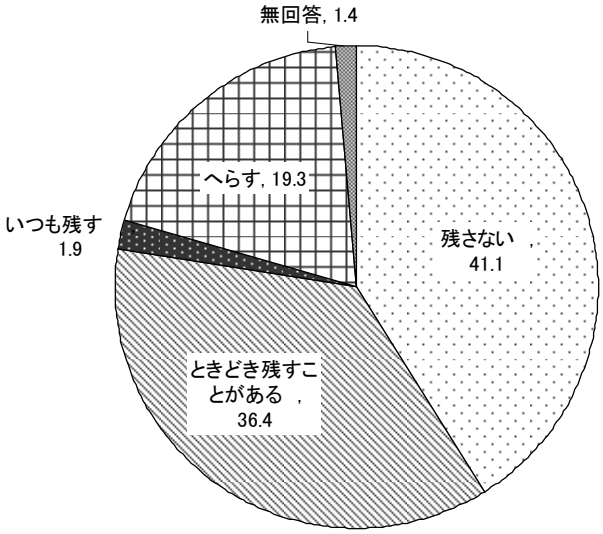
小・中学時代の給食の経験では、中学生で、ほぼ 100%の生徒が小学校時代に給食を経験している。市民、保護者、教職員でも約 8 割が小学校時代に給食を経験しているが、中学校での経験は 10%前後にとどまっている。

（給食が好きか嫌いか）



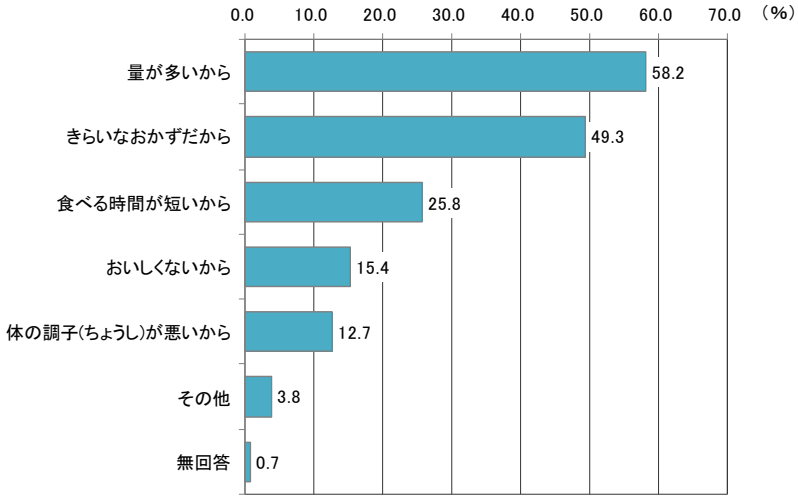
（給食を残すか）

○小学生（N=1,448）

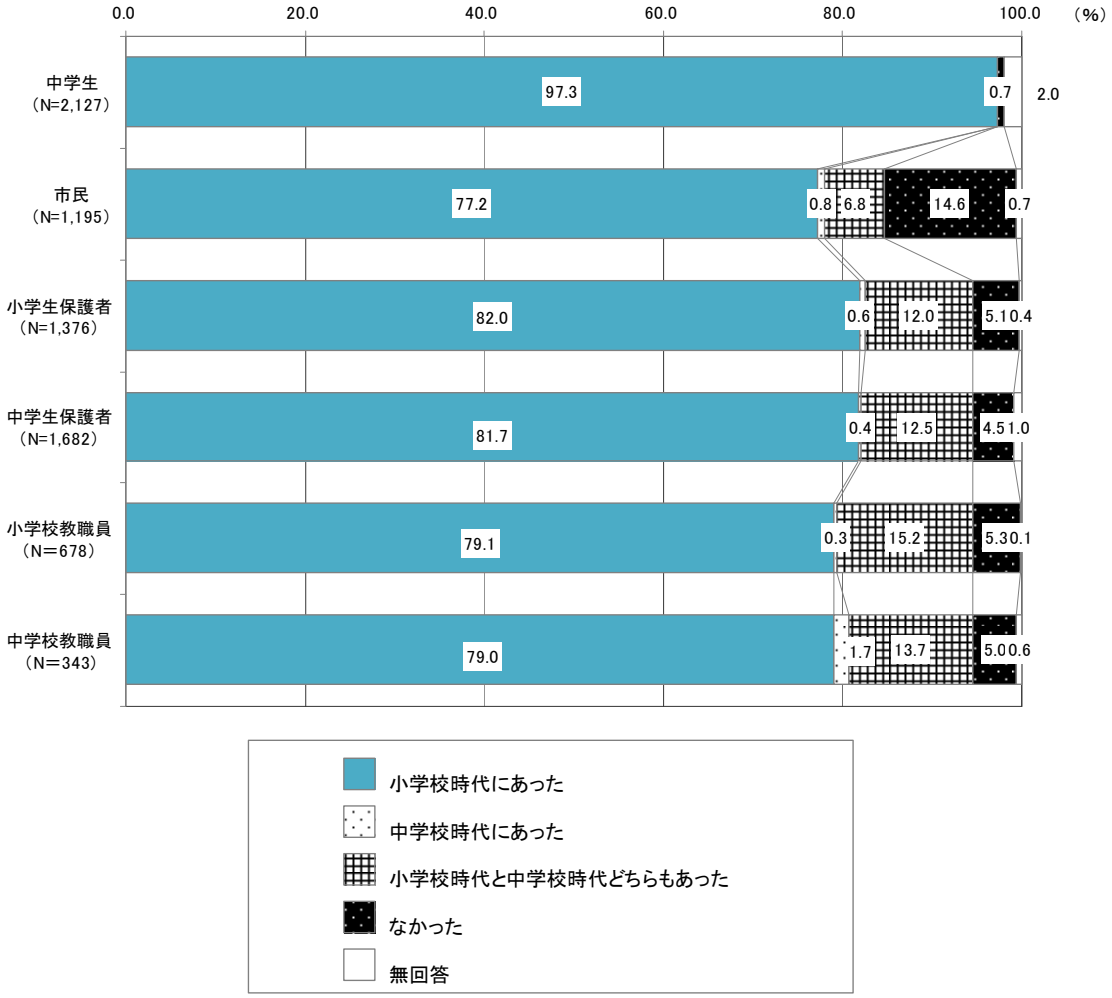


（給食を残す理由　※複数回答）

○小学生（N=833）



（小・中学時代の給食の経験）



５．スクールランチについて

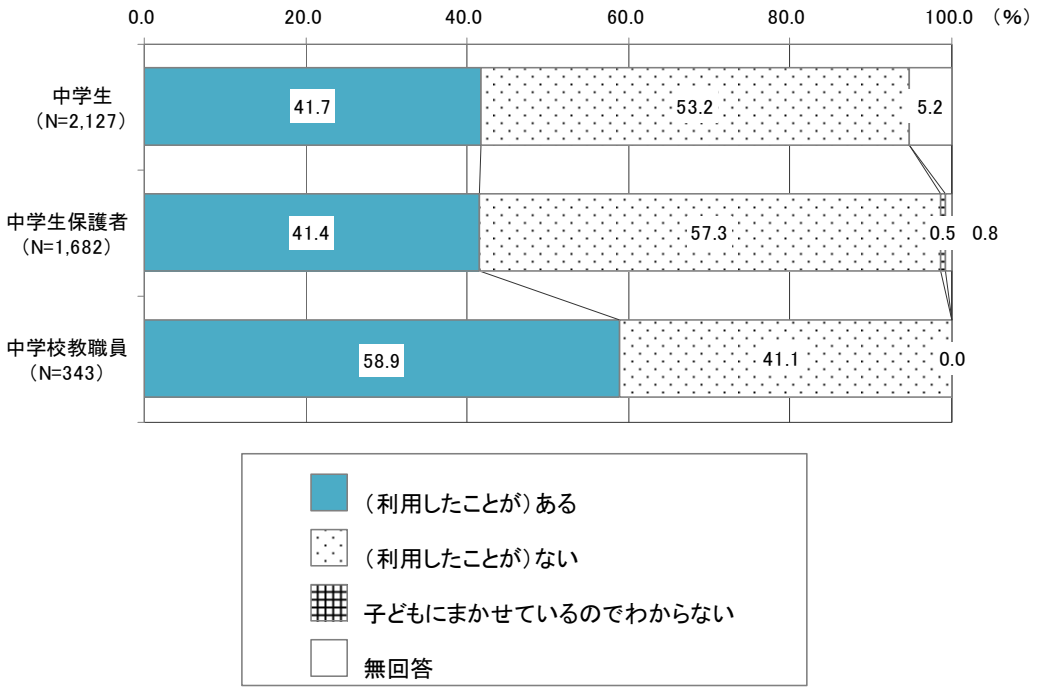
中学生、中学生教職員	問 7～11
中学生保護者	問 11～15

スクールランチの利用状況をみると、『(利用したことが）ある』と回答した中学生は約 4 割強であった。一方、中学校教職員では 6 割弱が『(利用したことが）ある』と回答していた。

スクールランチを利用する理由として、中学生及び中学生保護者を見ると『お弁当を持ってきていない（持たせることができなかった）から』が最も割合が高くなっているほか、中学生では『おいしいから』、中学生保護者では『子どもが食べたがるから』、『子どもがおいしいと言うから』等、中学生自身がスクールランチに好印象をもっているとの回答も多かった。また、中学校教職員では、『手軽に利用できるから』、『価格が安いから』など、利便性を重視して利用している回答がみられた。一方、スクールランチを利用しない理由としては、中学生、中学生保護者、中学校教職員のいずれも『いつもお弁当を持ってきているから』との回答が最も多かった。

スクールランチの課題については、『食べたことがないのでわからない』、『特に課題はない』などの割合が高いものの、『価格が高い』、『量が少ない』などのほか、中学校教職員では『献立に満足できない』との課題の意見もみられた。『スクールランチの利用とのクロス集計』についてみると、スクールランチの利用がある者の意見としては、中学生、中学校教職員とも、「特に課題はない」が最も多かったが、課題としては「価格が高い」、「量が少ない」が上位にみられた。

（スクールランチの利用）



（スクールランチを利用する理由）

※複数回答

中学生（N=886）		件数	%
1	お弁当を持ってきていないから	364	41.1
2	おいしいから	356	40.2
3	簡単に利用できるから	245	27.7
4	いろいろなメニューを食べられるから	131	14.8
5	量がちょうどいいから	96	10.8
6	安全・安心だから	45	5.1
7	その他	180	20.3
8	無回答	5	0.6
合計		1,422	160.5

中学生保護者（N=697）		件数	%
1	お弁当を持たせることができなかったから	351	50.4
2	子どもが食べたがるから	305	43.8
3	子どもがおいしいというから	112	16.1
4	手軽に利用できるから	112	16.1
5	栄養バランスが整っているから	75	10.8
6	価格が安いから	44	6.3
7	量がちょうどいいから	7	1.0
8	その他	107	15.4
9	無回答	2	0.3
合計		1,115	160.0

中学校教職員（N=202）		件数	%
1	手軽に利用できるから	110	54.5
2	お弁当をもってこないから	105	52.0
3	価格が安いから	79	39.1
4	栄養バランスが整っているから	43	21.3
5	量がちょうどいいから	26	12.9
6	おいしいから	23	11.4
7	その他	14	6.9
8	無回答	1	0.5
合計		401	198.5

（スクールランチを利用しない理由）

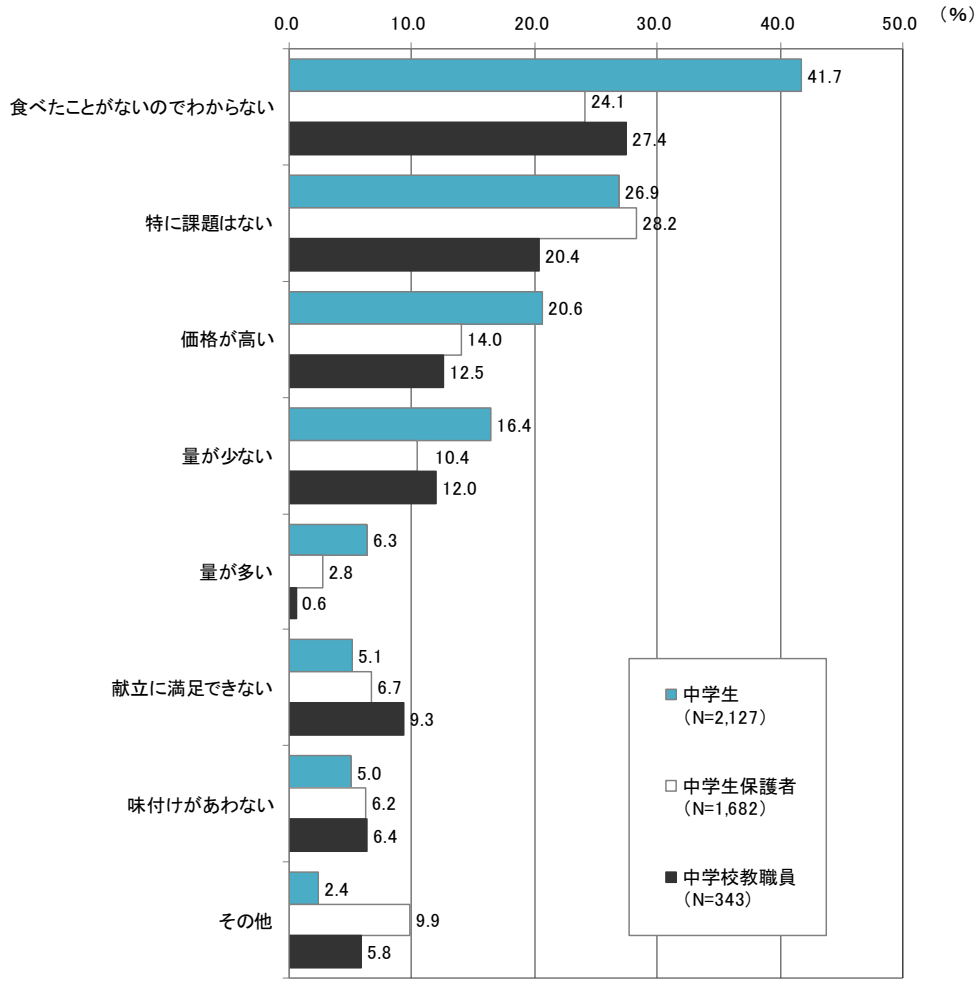
※複数回答

中学生（N=1,131）		件数	%
1	いつもお弁当を持ってきているから	835	73.8
2	お弁当の方が好きだから	435	38.5
3	おいしくなさそうだから	179	15.8
4	量が合わないから	168	14.9
5	友だちが利用しないから	126	11.1
6	好きなものを食べたいから	103	9.1
7	利用のしかたがわからないから	61	5.4
8	その他	120	10.6
9	無回答	10	0.9
合計		2,037	180.1

中学生保護者（N=963）		件数	%
1	いつもお弁当を持たせているから	680	70.6
2	子どもが購入を嫌がるから	403	41.8
3	子どもがお弁当を食べたがるから	315	32.7
4	価格が高いから	84	8.7
5	量が合わないから	70	7.3
6	子どもがおいしくないというから	58	6.0
7	安全面・衛生面が心配だから	25	2.6
8	利用のしかたがわからないから	23	2.4
9	その他	95	9.9
10	無回答	5	0.5
合計		1,758	182.6

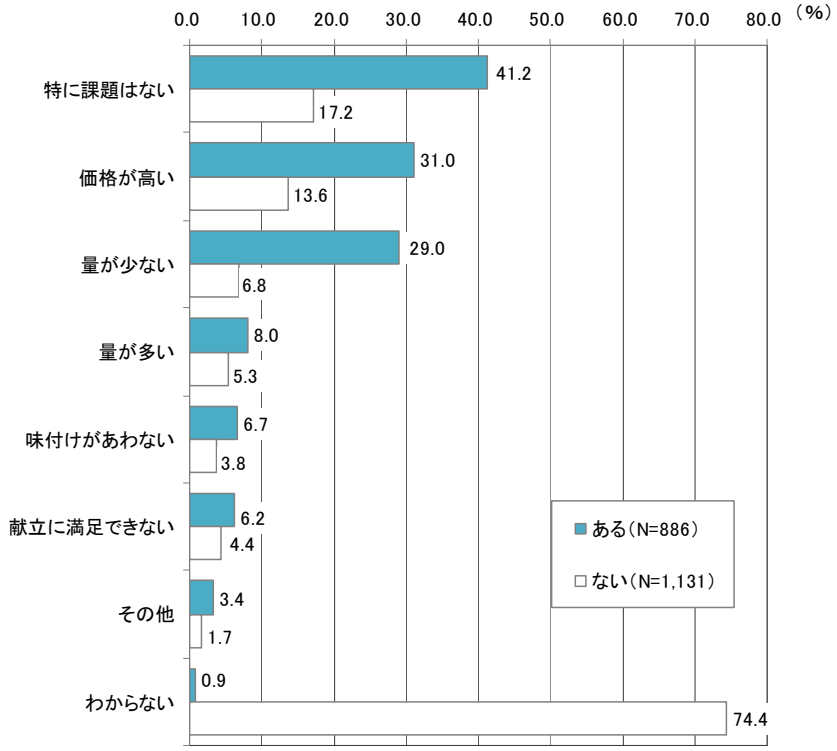
中学校教職員（N=141）		件数	%
1	いつもお弁当をもってきているから	100	70.9
2	量が合わないから	22	15.6
3	おいしくなさそうだから	13	9.2
4	価格が高いから	12	8.5
5	安全面・衛生面が心配だから	8	5.7
6	栄養バランスが偏るから	4	2.8
7	利用のしかたがわからないから	1	0.7
8	その他	17	12.1
9	無回答	0	0.0
合計		177	125.5

（スクールランチの課題　※複数回答）

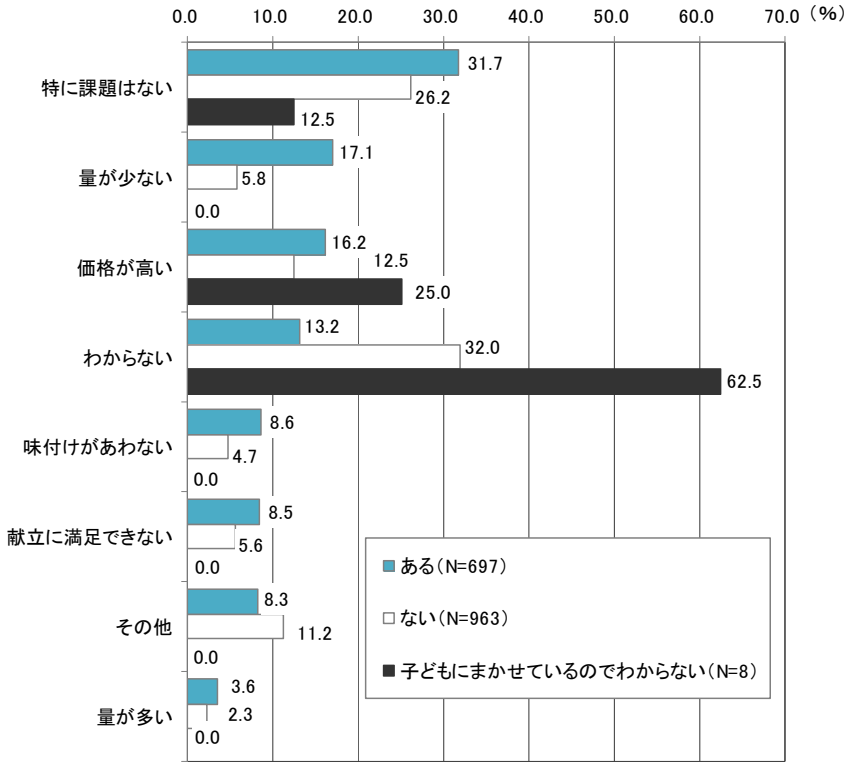


（スクールランチの課題について【スクールランチの利用とのクロス集計】）

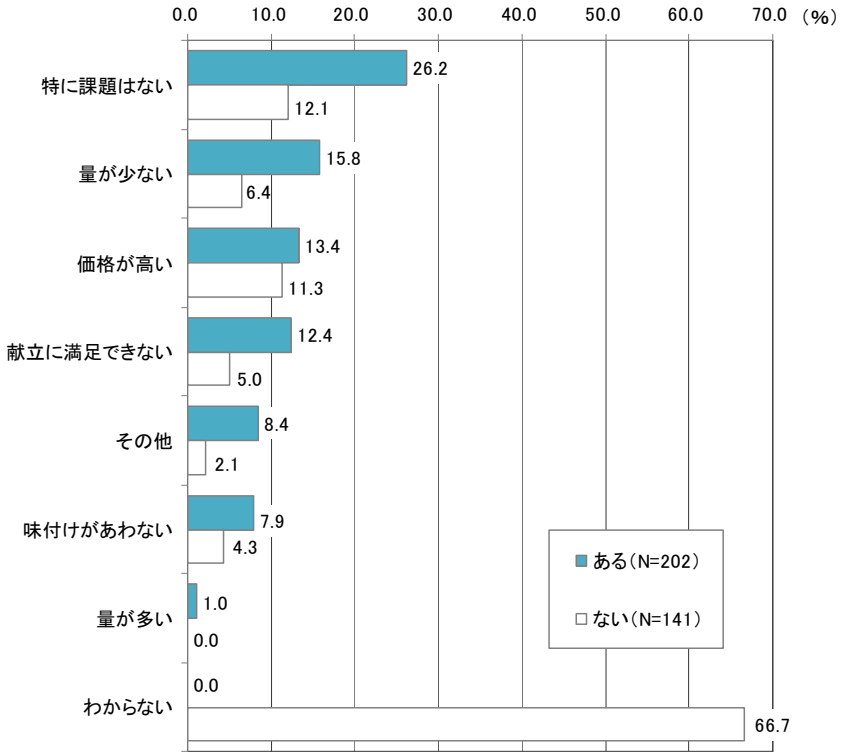
○中学生



○中学生保護者



○中学校教職員



（自由回答　※抜粋）

中学生	
おいしかった。（2年生、男子）	量に比べ価格が高い。（1年生、男子）
いつも温かいご飯を食べれるのでいいと思います。（2年生、女子）	わざわざたのみに行ったり5分間でとりに行くのはめんどうだからいや。（2年生、女子）
メニューが多くて、おいしい！！栄養をちゃんと考えてくれてる。（1年生、女子）	利用の仕方がよくわからない。利用しにくい。（1年生、女子）
丼ぶり系のものをもっと作ってほしい。（1年生、男子）	買うのがめんどうくさい。（2年生、男子）
飲み物をつけてほしい。（1年生、男子）	食べた事がないのでわからない。（1年生、男子）
たまに弁当を忘れるときにいいからスクールランチを買う。（1年生、女子）	あんまりみんな頼んでないなぁと思っている。人気がないと思う。（1年生、女子）
とても安心できて食べれる。（1年生、女子）	朝に食券買いに行く時間がない。（2年生、女子）
カレーがおいしい。（2年生、男子）	食べてみたいと思った事はあるが、友達がたのんでいないから、たのまない。（1年生、女子）

中学生保護者	
給食より家庭的なので助かります。（40歳、男性）	価格が高い。気楽に利用できる値段ではないと思う。（30代、女性）
献立表を見てもバランスよく作られていると思うのでたまにはスクールランチを食べてほしい。（30代、女性）	あまり子供から伝わってこない。子供の方があまり関心がないみたい。聞いてもあまりよくわからない。（40代、女性）
色々なメニューがあり良いと思います。子供の希望で何回か利用させて頂きました。おいしいと言っていました。（40代、女性）	子供の昼食で４００円前後は高い。職場では大人でも３００～４００円なのに。（40代、女子）
利用した事ありませんが、いざという時のため、その様なシステムが有るというだけで心強い安心です。（30代、女性）	スクールランチを取りに行って教室へ戻ると、お弁当持参の子が食べ始めていて、返しに行く手間も考えると、落ちついてゆっくり食べれないと聞きました。（40代、女性）
保護者で一度試食してみたい。（30代、女性）	親としては利用してほしいときもあるが、利用者が少なく目立つことや、注文、受取がめんどくさいと嫌がる。せっかくあるものなので子どもが利用しやすいものにしてほしい。（40代、女性）
献立を見て家のメニューに取入れる事もあります。（40代、女性）	もっと利用したいのですが、こどもがいやがるので困っています。（30代、女性）
どんぶりをもっと増やしてほしい。カレーの大盛があれば良い。（40代、男性）	学校行事の都合なのか、スクールランチの無い日が多くて困ります。（30代、女性）
お弁当を作れない時は、大変助かると思います。（40代、女性）	友人が食べないので恥ずかしいらしいです。時々は利用して欲しいのですが…。（40代、女性）

中学校教職員	
あったら便利で助かっています。生徒が昼食の選択肢がありいいと思います。（40代、女性）	もっとたくさん利用する人がいてもいいのに…と思う。食器を（容器）取りに行く時間、返す時間が決まっているので、忙しい時は、少し不便。（20代、女性）
販売員の方々が、どんな生徒にも温かく接して下さり、ありがたいです。用のない生徒も談笑しに行っている姿が見られます。（50代、男性）	中学生男子にしては、量が少ないように感じられる。（40代、男性）
朝以外にも買えるようにしてほしい。そうすれば利用者が増えるのではないか。（30代、男性）	あたたかい物が食べる事ができていいが、購入するのが手間である。（30代、女性）
献立は工夫されているし、量の調整もできるようになっているが、もう少し安価にできないものかと思っている。（50代、男性）	コンビニに負けていると感じる。（50代、男性）

６．中学校における昼食について

■　中学校の昼食について

小学生	問 10
中学生	問 12～14
市民	問 7, 8

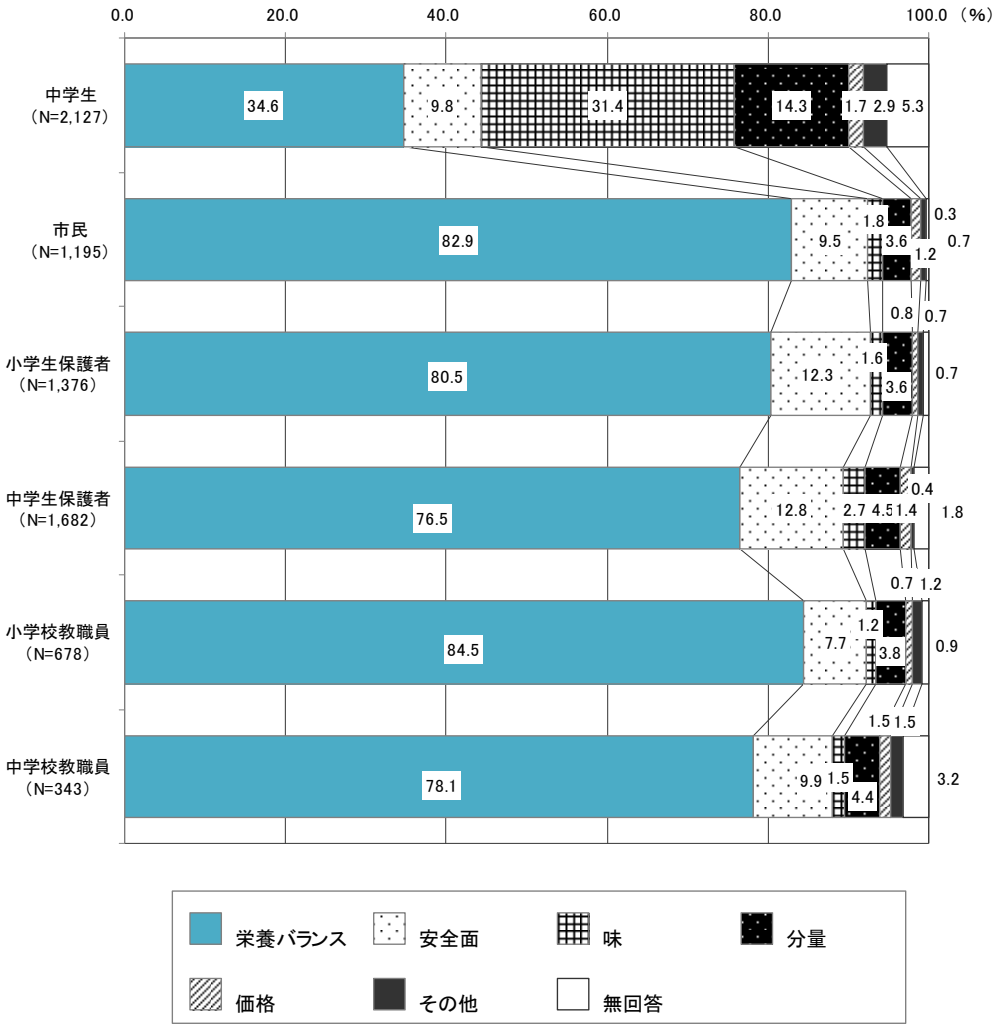
小学生保護者	問 9, 10
中学生保護者	問 9, 10, 16, 17
小学校教職員	問 7, 8
中学校教職員	問 12, 13

中学生の昼食で重視することについては、市民、保護者、教職員が『栄養バランス』を第一に考えているのに対し、中学生は『栄養バランス』のほか、『味』や『分量』を重視した回答も目立っていた。

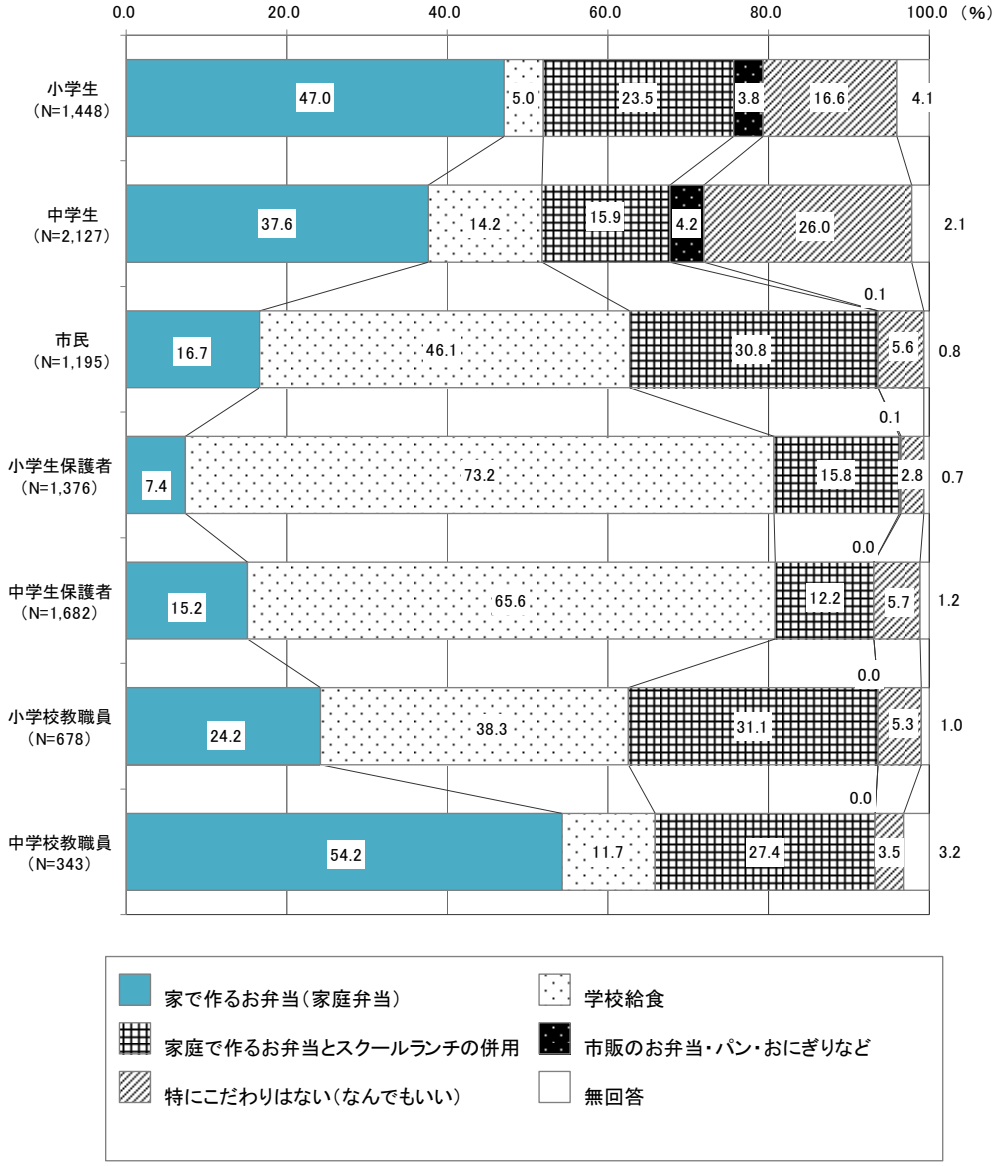
中学校での昼食として望ましいものは、小学生、中学生、中学校教職員では、『家で作るお弁当（家庭弁当）』、市民、小学生保護者、中学生保護者、小学生教職員では、『学校給食』との回答が最も高い割合となっていた。また、大人の回答ではほとんどみられなかったが、小学生、中学生では『市販のお弁当・パン・おにぎりなど』を希望する回答もみられた。

中学生の昼食の現状は、95.9%が『家庭で作るお弁当（家庭弁当）』を昼食として食べている。また、中学生保護者の 87.8%が子どもに『毎日』お弁当を持たせており、お弁当が用意できなかった日に持たせる額は『301 円～500 円』が 62.8%と最も高い割合となっている。

（中学生の昼食で重視すること）

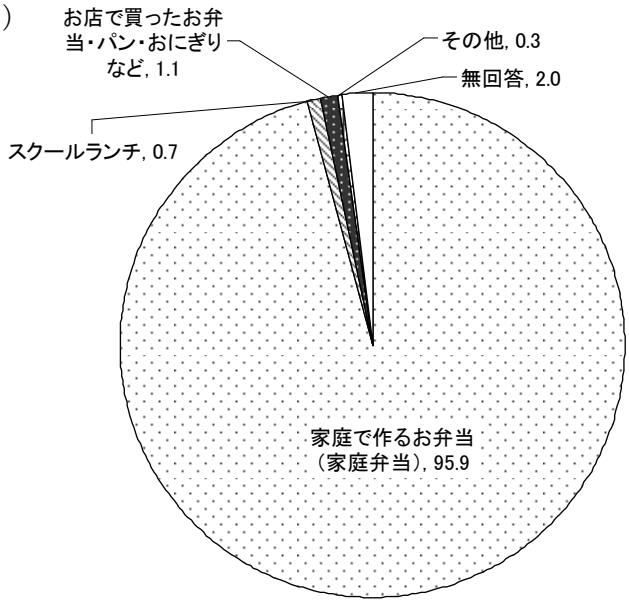


（中学校の昼食として望ましいもの）



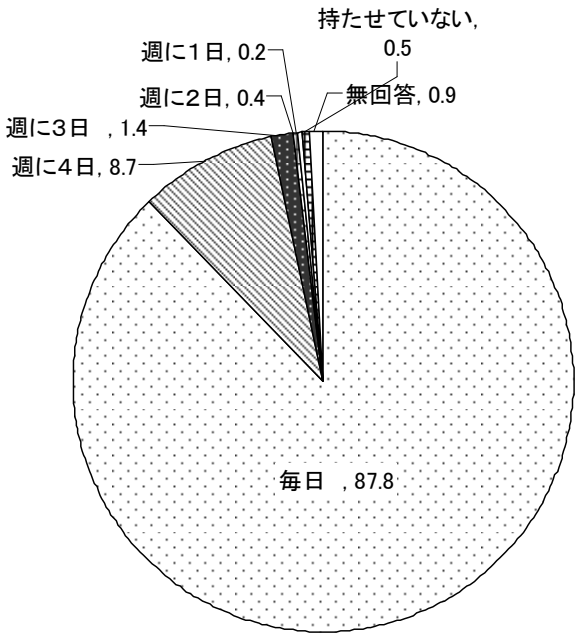
（中学生の昼食の現状）

○中学生（N=2, 127）



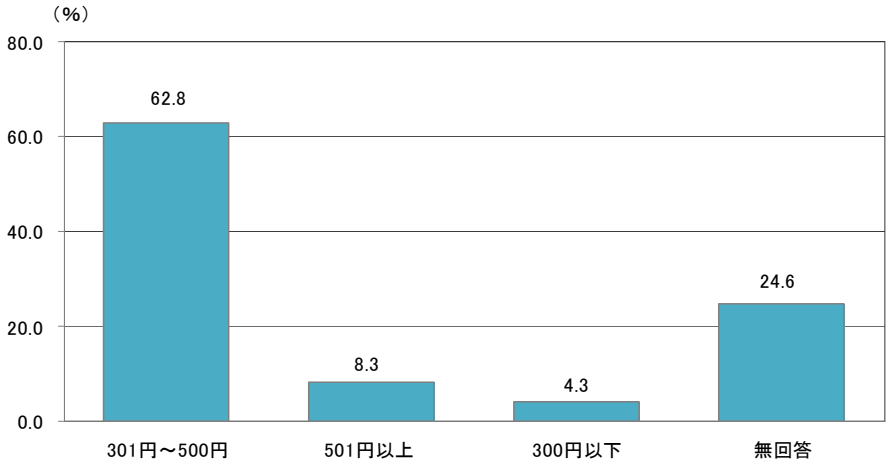
（家庭弁当持参の頻度）

○中学生保護者（N=1,682）



（家庭弁当を持参しない日の昼食代）

○中学生保護者（N=1,682）



■　家庭弁当と学校給食について

中学生	問 15, 16
市民	問 9～11
小学生保護者	問 11～14

中学生保護者	問 18～21
小学校教職員	問 9～12
中学校教職員	問 14～17

『家庭で作るお弁当（家庭弁当）持参』の利点としては、中学校教職員で『家庭でのふれあいを感じることができる』が最も高い割合となっているほかは、中学生、大人とも『内容や分量が調整できる』が最も高い割合となっている。中学生と中学生保護者では『すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える』との回答が、また、市民と教職員では『食物アレルギーの対応ができる』との回答も多くみられた。

一方、家庭弁当持参の課題としては、保護者と小学校教職員では、『夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である』、『日々のお弁当作りは、大変な作業である』、『好みのものを入れることによって、栄養が偏ってしまうことがある』が上位 3 項目を占めているが、中学校教職員では、『お弁当が作れないとき、昼食に困る』との回答も多くみられた。

（家庭弁当持参の利点）　※複数回答

中学生（N=2,127）		件数	%
1	おかずの内容や分量が調整できる	1,641	77.2
2	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	576	27.1
3	家庭でのふれあいを感じることができる	387	18.2
4	その他	126	5.9
5	無回答	86	4.0
合計		2,816	132.4

市民（N=1,195）		件数	%
1	内容や分量が調整できる	817	68.4
2	食物アレルギーへの対応ができる	688	57.6
3	家庭でのふれあいを感じることができる	597	50.0
4	お弁当の方が経済的である	289	24.2
5	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	237	19.8
6	食への関心や知識が得られる	101	8.5
7	その他	28	2.3
8	無回答	23	1.9
合計		2,780	232.6

小学生保護者（N=1,376）		件数	%
1	内容や分量が調整できる	967	70.3
2	家庭でのふれあいを感じることができる	525	38.2
3	食物アレルギーへの対応ができる	494	35.9
4	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	241	17.5
5	お弁当の方が経済的である	221	16.1
6	食への関心や知識が得られる	70	5.1
7	その他	64	4.7
8	無回答	45	3.3
合計		2,627	190.9

中学生保護者（N=1,682）		件数	%
1	内容や分量が調整できる	1,162	69.1
2	家庭でのふれあいを感じることができる	629	37.4
3	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	471	28.0
4	お弁当の方が経済的である	395	23.5
5	食物アレルギーへの対応ができる	385	22.9
6	食への関心や知識が得られる	61	3.6
7	その他	59	3.5
8	無回答	62	3.7
合計		3,224	191.7

小学校教職員（N=678）		件数	%
1	内容や分量が調整できる	478	70.5
2	家庭でのふれあいを感じることができる	472	69.6
3	食物アレルギーへの対応ができる	465	68.6
4	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	185	27.3
5	お弁当の方が経済的である	146	21.5
6	食への関心や知識が得られる	66	9.7
7	その他	6	0.9
8	無回答	5	0.7
合計		1,823	268.9

中学校教職員（N=343）		件数	%
1	家庭でのふれあいを感じることができる	266	77.6
2	内容や分量が調整できる	225	65.6
3	食物アレルギーへの対応ができる	216	63.0
4	お弁当の方が経済的である	100	29.2
5	すぐ食べられ、休憩時間が有効に使える	60	17.5
6	食への関心や知識が得られる	23	6.7
7	その他	10	2.9
8	無回答	11	3.2
合計		911	265.6

（家庭弁当持参の課題）　※複数回答

小学生保護者（N=1,376）		件数	%
1	夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である	1,215	88.3
2	日々のお弁当作りは、大変な作業である	1,085	78.9
3	好みのものを入れることによって、栄養が偏ってしまうことがある	793	57.6
4	お弁当が作れないとき、昼食に困る	676	49.1
5	必要量以上の食材を購入するなど、経済的負担が大きい	374	27.2
6	他の生徒のお弁当と比較されることがある	341	24.8
7	毎日学校に持っていくのが大変である	306	22.2
8	その他	29	2.1
9	無回答	18	1.3
合計		4,837	351.5

中学生保護者（N=1,682）		件数	%
1	夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である	1,412	83.9
2	日々のお弁当作りは、大変な作業である	1,225	72.8
3	好みのものを入れることによって、栄養が偏ってしまうことがある	853	50.7
4	お弁当が作れないとき、昼食に困る	544	32.3
5	必要量以上の食材を購入するなど、経済的負担が大きい	388	23.1
6	毎日学校に持っていくのが大変である	313	18.6
7	他の生徒のお弁当と比較されることがある	247	14.7
8	その他	42	2.5
9	無回答	37	2.2
合計		5,061	300.9

小学校教職員（N=678）		件数	%
1	日々のお弁当作りは、大変な作業である	526	77.6
2	夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である	475	70.1
3	好みのものを入れることによって、栄養が偏ってしまうことがある	392	57.8
4	お弁当が作れないとき、昼食に困る	307	45.3
5	他の生徒のお弁当と比較されることがある	158	23.3
6	毎日学校に持っていくのが大変である	91	13.4
7	必要量以上の食材を購入するなど、経済的負担が大きい	51	7.5
8	その他	14	2.1
9	無回答	10	1.5
合計		2,024	298.5

中学校教職員（N=343）		件数	%
1	日々のお弁当作りは、大変な作業である	256	74.6
2	夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である	176	51.3
3	お弁当が作れないとき、昼食に困る	122	35.6
4	好みのものを入れることによって、栄養が偏ってしまうことがある	96	28.0
5	他の生徒のお弁当と比較されることがある	49	14.3
6	毎日学校に持っていくのが大変である	22	6.4
7	必要量以上の食材を購入するなど、経済的負担が大きい	14	4.1
8	その他	10	2.9
9	無回答	19	5.5
合計		764	222.7

学校給食の利点としては、市民、保護者、教職員ともに『栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる』、『お弁当作りの負担が軽減される』、『安全・安心な昼食をとることができる』を上位３項目としてあげている。

一方、学校給食の課題としては、市民、保護者、教職員ともに『給食費の滞納の問題がある』との回答の割合が最も高く、『食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる』、『給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする』が上位３項目を占めているが、中学校教職員では、『準備や後片付けの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る』との回答も多くみられた。

（学校給食の利点）　※複数回答

	市民（N=1,195）	件数	%
1	栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる	1,038	86.9
2	お弁当作りの負担が軽減される	819	68.5
3	安全・安心な昼食をとることができる	572	47.9
4	準備や後片づけなど共同作業をすることで、協調性などを養うことができる	563	47.1
5	好き嫌いをなおすきっかけになる	501	41.9
6	献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる	325	27.2
7	食への関心や知識が得られる	205	17.2
8	食事のマナーが身につく	199	16.7
9	給食の方が経済的である	180	15.1
10	その他	32	2.7
11	無回答	16	1.3
	合計	4,450	372.4

	小学生保護者（N=1,376）	件数	%
1	栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる	1,283	93.2
2	お弁当作りの負担が軽減される	1,122	81.5
3	安全・安心な昼食をとることができる	935	68.0
4	好き嫌いをなおすきっかけになる	707	51.4
5	準備や後片づけなど共同作業をすることで、協調性などを養うことができる	607	44.1
6	給食の方が経済的である	550	40.0
7	献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる	386	28.1
8	食への関心や知識が得られる	288	20.9
9	食事のマナーが身につく	206	15.0
10	その他	26	1.9
11	無回答	11	0.8
	合計	6,121	444.8

	中学生保護者（N=1,682）	件数	%
1	栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる	1,533	91.1
2	お弁当作りの負担が軽減される	1,383	82.2
3	安全・安心な昼食をとることができる	1,052	62.5
4	好き嫌いをなおすきっかけになる	806	47.9
5	準備や後片づけなど共同作業をすることで、協調性などを養うことができる	724	43.0
6	給食の方が経済的である	635	37.8
7	献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる	442	26.3
8	食への関心や知識が得られる	335	19.9
9	食事のマナーが身につく	234	13.9
10	その他	43	2.6
11	無回答	21	1.2
	合計	7,208	428.5

小学校教職員（N=678）		件数	%
1	栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる	571	84.2
2	お弁当作りの負担が軽減される	525	77.4
3	安全・安心な昼食をとることができる	438	64.6
4	準備や後片づけなど共同作業をすることで、協調性などを養うことができる	204	30.1
5	給食の方が経済的である	171	25.2
6	献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる	141	20.8
7	食への関心や知識が得られる	138	20.4
8	好き嫌いをなおすきっかけになる	133	19.6
9	食事のマナーが身につく	86	12.7
10	その他	10	1.5
11	無回答	10	1.5
合計		2,427	358.0

中学校教職員（N=343）		件数	%
1	栄養価が配慮されており、バランスよく食べることができる	244	71.1
2	お弁当作りの負担が軽減される	235	68.5
3	安全・安心な昼食をとることができる	131	38.2
4	準備や後片づけなど共同作業をすることで、協調性などを養うことができる	92	26.8
5	給食の方が経済的である	52	15.2
6	好き嫌いをなおすきっかけになる	51	14.9
7	献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる	41	12.0
8	食への関心や知識が得られる	30	8.7
9	食事のマナーが身につく	30	8.7
10	その他	7	2.0
11	無回答	22	6.4
合計		935	272.6

（学校給食の課題）　※複数回答

市民（N=1,195）		件数	%
1	給食費の滞納の問題がある	752	62.9
2	食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる	552	46.2
3	給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする	390	32.6
4	食べ物を残したり、食べるペースが遅いことを子どもが負担に感じる	355	29.7
5	準備や後片付けの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る	204	17.1
6	給食にたくさんの税金を使うことになる	202	16.9
7	その他	48	4.0
8	無回答	64	5.4
合計		2,567	214.8

小学生保護者（N=1,376）		件数	%
1	給食費の滞納の問題がある	628	45.6
2	給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする	445	32.3
3	食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる	444	32.3
4	食べ物を残したり、食べるペースが遅いことを子どもが負担に感じる	284	20.6
5	準備や後片づけの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る	235	17.1
6	給食にたくさんの税金を使うことになる	88	6.4
7	その他	69	5.0
8	無回答	161	11.7
合計		2,354	171.1

中学生保護者（N=1,682）		件数	%
1	給食費の滞納の問題がある	753	44.8
2	給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする	524	31.2
3	食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる	495	29.4
4	準備や後片づけの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る	360	21.4
5	食べ物を残したり、食べるペースが遅いことを子どもが負担に感じる	344	20.5
6	給食にたくさんの税金を使うことになる	119	7.1
7	その他	97	5.8
8	無回答	230	13.7
合計		2,922	173.7

小学校教職員（N=678）		件数	%
1	給食費の滞納の問題がある	475	70.1
2	給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする	388	57.2
3	食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる	335	49.4
4	準備や後片づけの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る	273	40.3
5	食べ物を残したり、食べるペースが遅いことを子どもが負担に感じる	178	26.3
6	給食にたくさんの税金を使うことになる	83	12.2
7	その他	30	4.4
8	無回答	29	4.3
合計		1,791	264.2

中学校教職員（N=343）		件数	%
1	給食費の滞納の問題がある	274	79.9
2	給食当番をまじめにしなかったり、給食にいたずらしたりする	218	63.6
3	準備や後片づけの時間が必要になるため、他の活動時間が今よりも減る	194	56.6
4	食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでる	193	56.3
5	食べ物を残したり、食べるペースが遅いことを子どもが負担に感じる	135	39.4
6	給食にたくさんの税金を使うことになる	55	16.0
7	その他	18	5.2
8	無回答	9	2.6
合計		1,096	319.5

■　中学校での学校給食実施について

小学生	問 11～13
中学生	問 18～21
市民	問 13～15

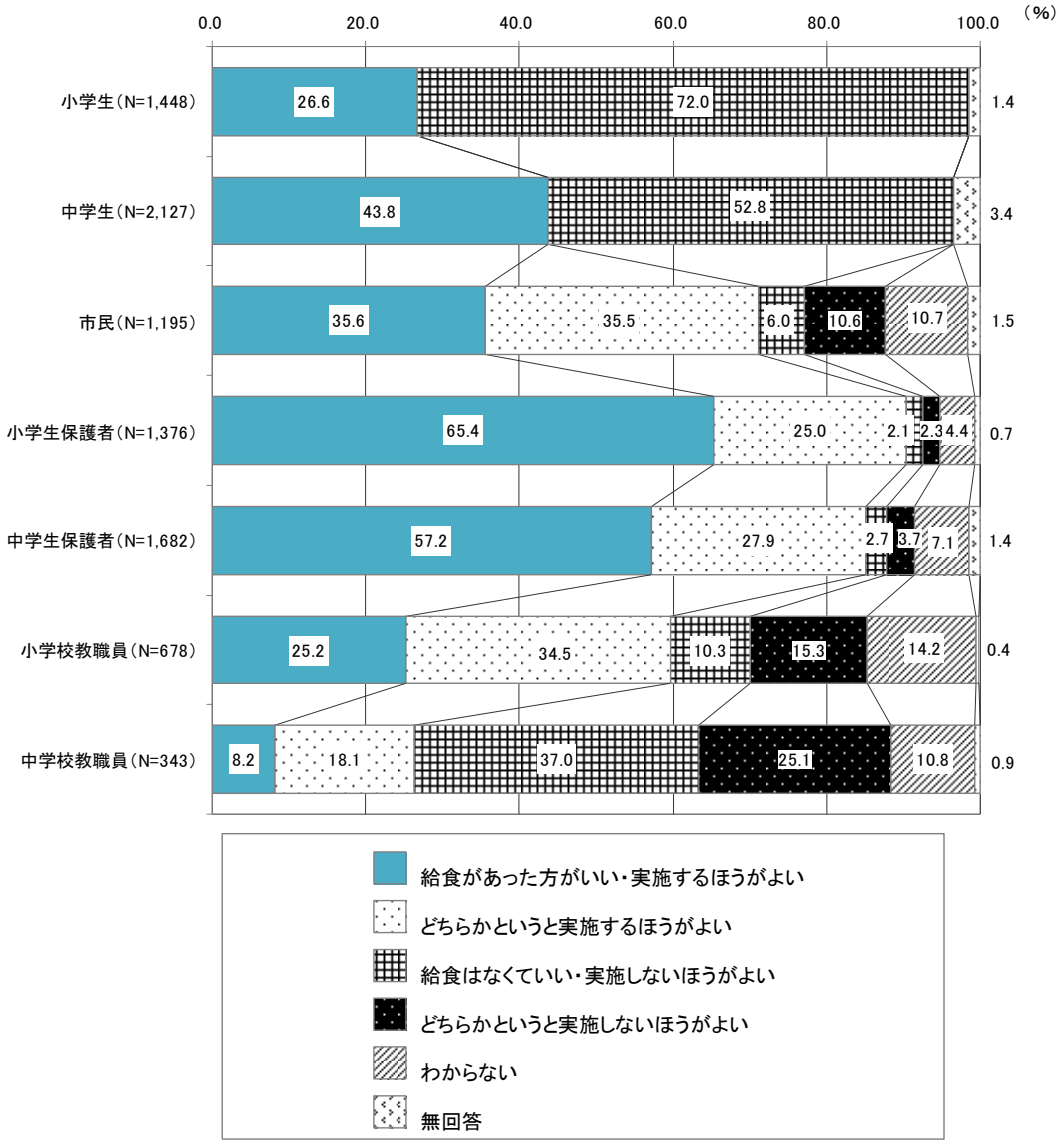
小学生保護者	問 17～19
中学生保護者	問 23～25
小学校教職員	問 14～16
中学校教職員	問 19～21

中学校での学校給食実施については、市民、小学生保護者、中学生保護者では『実施するほうがよい』、『どちらかというと実施するほうがよい』という意見が、それぞれ 71.1%、90.4%、85.1%と大半を占めていたが、小学生、中学生、中学校教職員では、それが 26.6%、43.8%、26.3%にとどまった。

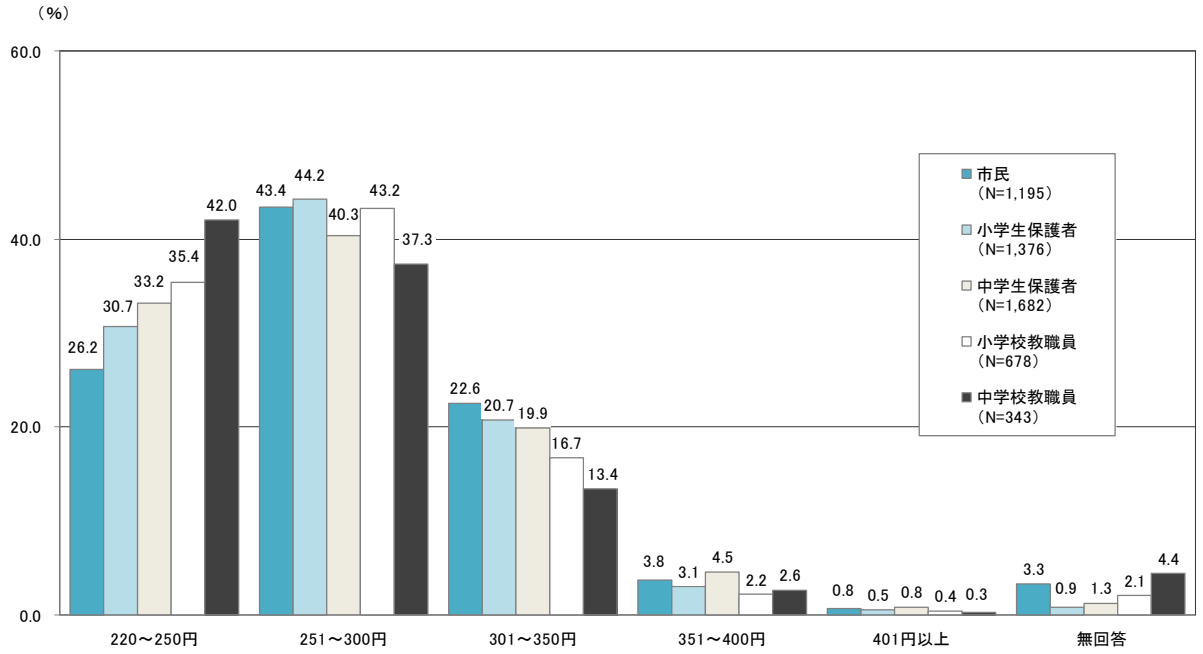
小学生、中学生が中学校で給食を『実施するほうがよい』と回答した理由としては、『いろいろなメニューを食べられるから』、『おいしいから』、『安心して食べられるから』との回答が多くみられた。一方、給食を『実施しないほうがよい』と回答した理由としては、『お弁当の方が好きだから』という回答が最も高い割合を示しており、前述の『中学校の昼食として望ましいもの』の結果と同傾向を示していた。

また、中学校で給食を実施した場合の 1 食あたりの値段としては、『251 円～300 円』、『220 円～250 円』との回答が大半を占めていた。

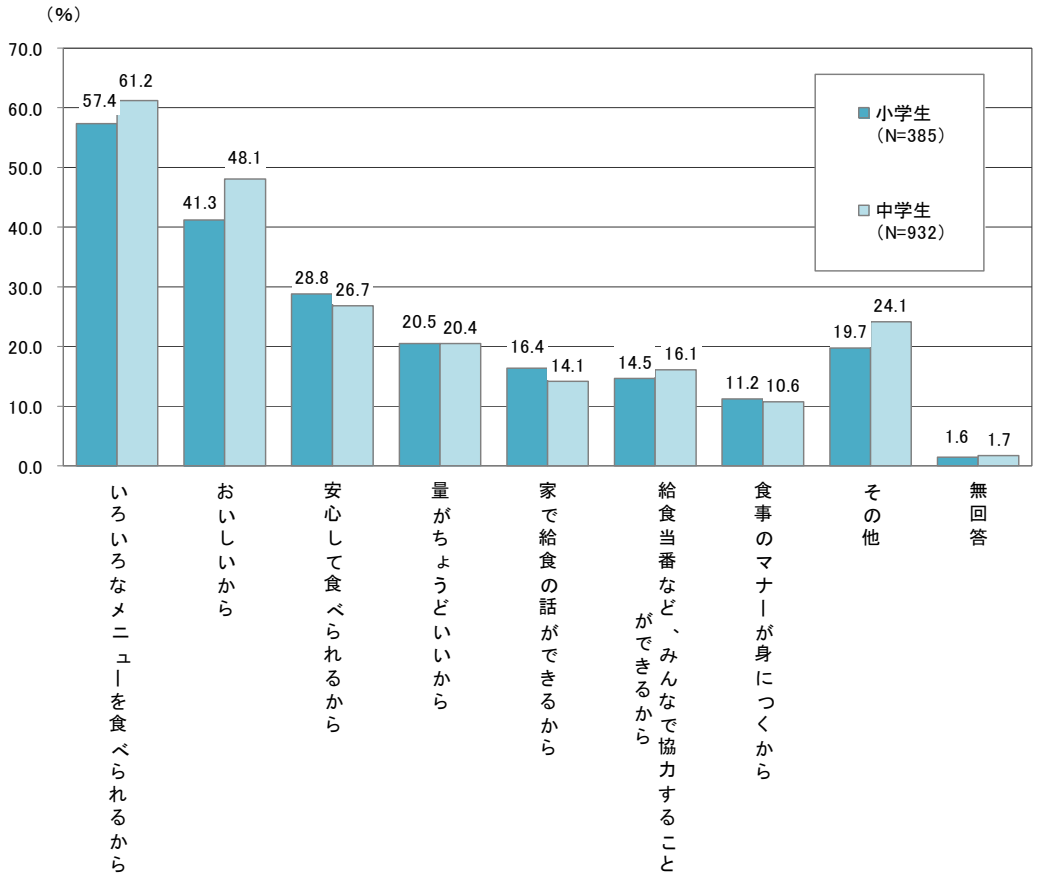
（中学校での学校給食実施について）



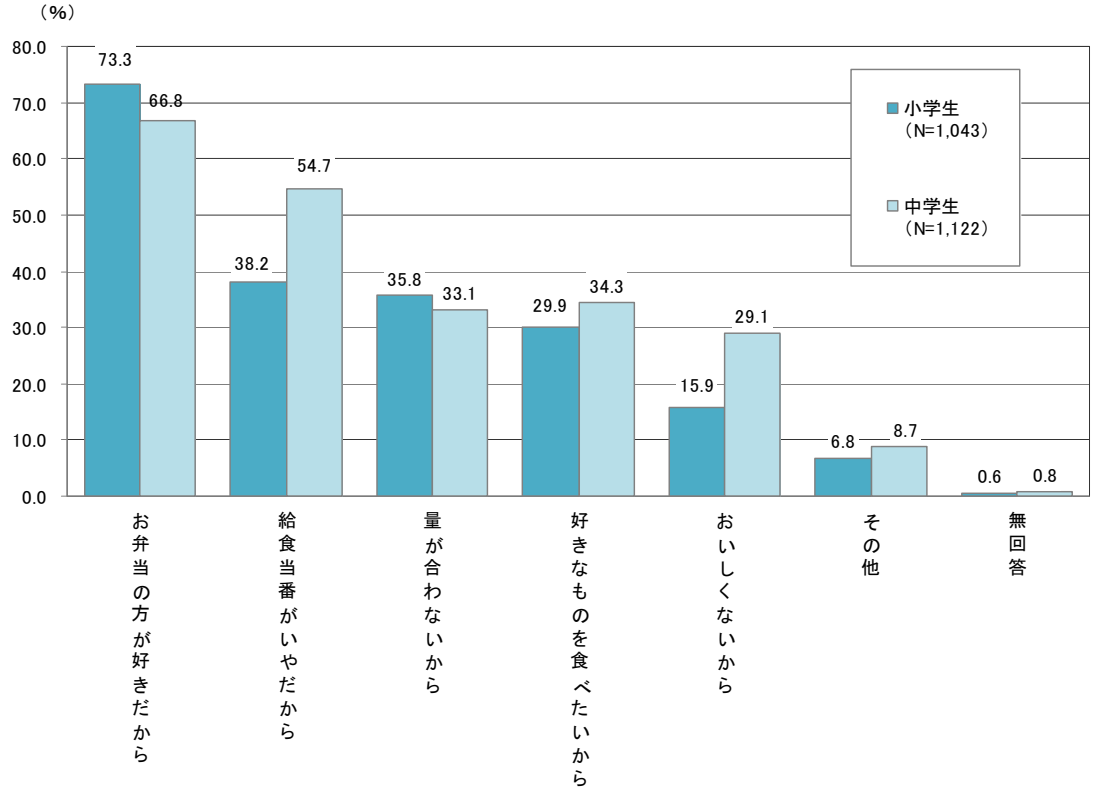
（中学校での給食１食あたりの値段）



（中学校で給食を実施するほうがよい理由　※複数回答）



（中学校で給食を実施しないほうがよい理由　※複数回答）



（自由回答　※抜粋）

中学生	
弁当を比べられるのがいやだ。おいしく食べられない。（2年生、女子）	給食は実施してほしくないです。なぜかと言うと、お弁当の方がおいしいし、お弁当の方が好きだからです。（2年生、女子）
弁当を持ってくるだけで荷物も増えるし、スクールランチを買っても量が少ないので満足できない。（2年生、男子）	家の弁当はおいしいけど飽きる時もある。でも給食より弁当の方がいい。（2年生、女子）
給食は友達と一緒に食べられるからいい。（1年生、男子）	休み時間が少なくなるし、食べ残しとかが増えそうなので給食は実施しない方が良いと思う。（2年生、女子）
学校給食をしたら人によって量がちがったり、好ききらいが逆になおらないと思う。でも、ふだんの弁当の時はもってきていない人がいる。それでまわりの人が弁当をわける現実がある。（2年生、女子）	お弁当を持って行くと重たくもなるけど、好きな物が入っているのでお弁当やコンビニの方がいい。（1年生、女子）
弁当だと家で作るのがめんどうくさいし、買うのもお金がかかってしまうので給食の方がいいと思います。（1年生、男子）	食べる時間が少ないから急いで食べなければならない。（1年生、男子）

市民	
今とても複雑な家庭環境が多く毎日お弁当を持たせることができない家庭にとって学校給食があればとても助かると思います。（30代、女性）	中学校給食の実施には反対です。嫌いな物を無理に食べさせたり、残してしまったりするからです。嫌いな物を強制的に食べさせるより、食べられる物の中からバランスよく摂取できればそれでいいと思います。（40代、女性）
給食は栄養バランスがとても良いと思います。主婦の私も学校で食べたいぐらいです。家庭での食事はこのみなのでかたよってしまいます。息子が中学生の時に、弁当を持たない子がいてて、その子は家から弁当代をもらったにもかかわらずに、その弁当代でお菓子などに使っていたそうです。実際給食費を滞納する方が多いので大きな問題です。（30代、女性）	食育については、家庭で行われることが基本であると思います。しかしながら、共働きの家庭が増え子どもの弁当作りを負担に感じる傾向が強くなってきているように思います。親が愛情を込め作る弁当は子どもにとって何よりだと考えますが、現実として手作り弁当を持たせてもらえる子ばかりではないようです。その子たちのためには学校給食は必要でしょう、ですから今までどおり手作り弁当とスクールランチの併用が望ましいのではないでしょうか。（50代、女性）
給食はあれば良いと思う。できるなら実施した方がいいとは思いますが…。給食費の滞納の問題がきちんと改善されなければ（小・中学生全てで）実施は困難かと思われます。でも、給食はあったら良いなと思います（親も子供も助かると思う）。（30代女性）	現場の教師はただでさえ、生活指導などで多忙なのに、給食の制度にするともっと仕事が増える。教師として本来すべき仕事（教材研究など）が出来ずらくなると思います。（20歳未満、男性）
課題は色々あると思いますが給食を実施すべきだと思います。当時子供だった立場から考えても、毎日様々なメニューを食せ、温かい食事が取れるのはとても良いことですし、親の立場から考えても、食事のバランス面では安心して任せられるうえ、今や共働きの家庭が多くお弁当が用意できない場合も増えることを考えても給食があればよいのではと思います。（20代、女性）	先生、友人を通じて同じ物を食し、準備片付けをする事により共同生活も教育の一つとして良いと思います。好き・嫌いについては、各家庭の教育が第一だと思います。又、食する物に対する大切さは、家庭はもちろんですが、教育の現場含め、大人の役割だと思います。（40代、男性）
中学生より、保護者の食への関心や、食事の大切さの有無により違うと思います。豊かな食生活を、誤解や勘違いをしている保護者が多くありませんか？お金を出せば、コンビニやスーパーでいつでも買える弁当やおにぎりと、スクールランチ…要は便利で安価で食べればいいわの保護者が多いのではありませんか？（60代、女性）	中学時代は身体面で最も伸びる時期です。個人差も大きくなる時でもあり、画一的な給食というわけには出来ないでしょう。やはり、食育の原則は家庭にありという原則に立ち帰るべきだと思います。従って中学給食の必要性はありません。（70代、男性）

中学生保護者	
1日、仕事をしている母親にとって、毎日のお弁当作りは大変な事です。どうしても、冷凍食品にたよってしまう事です。夏場はいたみやすいのでなるべく冷ましてからと思い、早く作るそのくりかえしです。給食になったらどんなに楽になるかと思います。ぜひ給食にして頂きたいと思います。（30代、女性）	小学校の給食は学校で作ってもらえたので、アレルギーに関しては安心でしたが、中学では学校で作らないため不安です。小学校の時のように学校で作ってもらえると利用できるかもしれないのですが…。（30代、女性）
夏はお弁当を、食べるまでどんなところにおいているのか心配です。同じようなものにならないよう気をつけているのですがむずかしいです。スクールランチのメニューは参考にさせてもらってます。中学校給食に、なったらいいですね。（40代、女性）	お弁当作りは大変ですが、スクールランチもあるし、3年間だけですから、このままのほうがいいと思います。お弁当のおかずのことで子供と「何がいい？」「こんなふうに作ったらおいしいかも」とか、話せます。子供が女の子だからなのか、毎朝、自分で、お弁当を詰めています。（50代、女性）
家庭ではなかなか栄養バランスの計算や工夫が難しくどうしても偏りがちです。小学校の時は、本当に助かっていました。是非とも、給食にして頂きたいと思っております。（40代、女性）	昼食時間が短いので弁当の量を減らしてほしいと言います。けっして量は多くないと思うのですが！余裕の有る食事時間がとれないのでしょうか？中学校給食になれば、汁物も出てよいと思います。ただ食事の量が男・女・個人の差が出てくる時期なので大変な事だと思います。食物の旬、郷土料理など学べる事も多いと思います。（60代、女性）
食育を重視するならお弁当がベストだと思いますが家庭の事情もあり朝は、忙しいです。入学以前から給食を望んでいました。（50代、女性）	栄養については給食の方がいいと思いますが子供は、親の愛情のこもった弁当を欲しがっているのでどちらとも言えません。（40代、女性）
保育所、小学校の給食はおいしかったと二人の子供は言っていました。あたたかい食事ができればありがたいと思います。お弁当もめんどうですが、親子のつながりのようにも思えます。この暑さで夏のお弁当が心配になる今日この頃ですが…。給食があればありがたいです。（40代、男性）	子供にとっては、やはりお弁当の方が楽しみで好物も入れられるので良いとは思うのですが、（実さいに自分自身も中学の時お弁当でとてもうれしかったので…）お弁当作りは大変なのでできれば給食なればありがたいです（共働きなので…）。なぜ岸和田市は給食にならないのかな？と思っていましたが、このアンケートでいろんな問題があるんだなあと思いました。勉強になりました。ありがとうございます。（40代、女性）

中学校教職員	
共働き等で、毎日お弁当を持って来れなかったり、夜勤明けでお母さんがお弁当を昼前に持ってきたりと、お弁当だけでは大変な家庭が多いように感じます。スクールランチも画期的だと思います。ただ、未納問題もあるので、実施するべきとは言いにくいですが、子どもたちのことを考えるとあっても良いと思います。（20代、女性）	弁当でさえ食指導が必要な中、給食が実施されると今以上に食指導に労力時間が必要になると思うので不安。異物混入やいたずらなどもあり、実施したくない。（20代、女性）
給食は準備など、担任の先生の負担が大きいが、準備当番など、仕事をすることで責任感がつく。それにみんなと同じものを食べることで子どもたちの会話がはずむ。お弁当では栄養バランスが悪く、量が少ない傾向にある。成長期にしっかりと食べることの大切さを知るきっかけになる。「食育」にも給食があるとつながったことができると思う。給食実施を希望します。（30代、女性）	中学校給食を行うメリットがない。実施することで、問題が増えることしか予想できない。給食でおこる問題よりも、現状の生徒指導などの問題を解決していくことが、大事だと考える。昼食に関しては、今の弁当と、スクールランチの、状況で、十分である。給食には、反対である。（30代、男性）
いろいろ指導、管理上問題があると思うけれど、中学生及び中学生のいる家庭のためには、給食は実施した方がよい点が多いと思う。（40代、男性）	お弁当は子供達の楽しみのひとつです。これからもぜひ続けて下さい。（50代、男性）
保護者の方からの思いとしては、給食があった方が絶対良いとの意見が多いと思うのですが、ただ…そうなると完全なる昼食指導となり、給食指導となる。昼、休憩（教師）もなく完全な仕事が増えることはやめてほしい。（50代、男性）	お弁当を持ってきている生徒とコンビニで買っている生徒の栄養バランスの差が気になる。（20代、男性）
弁当の場合、家庭への配慮もあり部活動の朝練習など実施しにくい。（50代、男性）	家庭での弁当の方がアレルギー問題などに対応できるので、安心で安全だと思います。（30代、男性）

小学生保護者	
一番の成長期である中学校の栄養バランスは重要であり、お弁当はどうしても偏ってしまう。子供手当の額を半分にしてでも給食にするべきであると思う。そうしたら滞納の問題もなく、平等に有効に税金を使えると思う。子供手当を子供に使わない親も沢山いてます。（30代、女性）	成長期の子供さんにとって、栄養にバランスやたくさんの量を食べる事を考えると、やはり、中学校の給食はおかわりも出き、バランス良く食べるというのが望ましいです。お弁当と違い全員同じものを食べることで、嫌がらせなどもなくなると思います。（20代、女性）
全国的に見て、大阪府の公立中学校の給食実施率は低いそうです。私は大阪出身ではないので20年前に中学生の時は給食でした。この地域の中学校は未だに弁当という事に驚きました。親になり上の子が中学生になり毎日弁当を作っています。朝はとても忙しく毎日の弁当作りはとても大変です。嫌いなものを入れないでと強く言うので、いつも同じようなおかずです。暑い時期は、弁当が傷まないかとか食中毒の心配もあります。給食なら栄養バランスも考えられているし、暑い時期の心配も減り、冬は温かいものが食べられて良いと思います。お弁当は高校生になってから、社会人になってからでも食べられますが、給食は、義務教育期間だけだと思うのでぜひ中学校の給食を実施して欲しいと思っています。（30代、女性）	中学校で給食を取り入れてもらえると、大変有り難い事だと思います。ただ、何でも学校へ…というのも気が引ける部分もあり、我子の食べているもの、食べている量を考えるのも親の仕事かなと思う面もあり、全面的に…とするよりも今、行われている様な、弁当…時々、スクールランチが子供の気持ち（お弁当が好きなので）に寄りそっているかなと思っています。（30代、女性）
お弁当作りは楽しいですが、ワンパターンになってしまいがち。週に1度でも学校の中でパンや飲み物等が買える日があると助かります。コンビニ等に朝から出入するのは少し抵抗がありますので。お弁当の“お休みの日”が週に1度でもあると負担が少ないと思います。（40代、女性）	スクールランチの制度を知らなかったので、保護者の体調の悪い時など、お弁当を用意するのは大変だろうな…と思っていました。でも、当日注文できるなら、安心だし、親としても楽しんでお弁当作りができそうな気がします。全面的に給食になってしまうのも少し残念な気がします。親にとっても子どもにとっても。（50代、女性）
全員が同じ物を食べるから1人1人が気を使わず楽しい給食となる。中学生の給食となると一番食欲が出る年頃だから給食の量を考えて欲しいです。（60代以上、女性）	私は、お弁当の方が良いと思いますが、どうしても作れない時はスクールランチがあれば助かります。（40代、女性）
お弁当だと子供の好みに偏ったものになりがちであり、できれば給食のほうがありがたい。また、冬場は、保温のランチボックスを持たせることになり、教科書、クラブの用具のほかに荷物が増えることになる。特に家庭の事情のためか、毎日菓子パンを食べている生徒、コンビニ弁当しか持ってこない生徒もいる。食事バランスの面でも給食の実施が望まれる。（40代、男性）	給食が小学校の様な形式で出されるのかスクールランチの様な弁当給食になるかで実施の是非が変わると思います。現状の中学生がまじめに当番をするとは考えにくいです。それをきちんとさせる力が学校側にあるかどうか…。何事においても家庭のしつけが第一なんですが…。（50代、女性）

小学校教職員	
中学生の頃、給食はありませんでした。母がいつも作ってくれていましたが購入児童はいつも購入したパンを食べていました。また、いじめで教師の見ていない所でお金のトラブルなどもありました。給食の方が全員が安全に、安心な内容を食べられるのではないかと思います。（20代、女性）	中学校の昼食を給食にすることが大切なのではなく、家庭の中で親子が食について話し合ったり、お弁当を一緒に作る時間的な余裕が必要です。そのような社会の仕組みにすることが大切なのであって、家庭の負担が大きいから給食にするというのはナンセンスだと思います。家庭の責任も考えなければ…。（30代、男性）
全国的にみると中学校も給食を実施している都道府県が大半をしめている。大阪の中学生は1日1回も栄養バランスのとれた食事があたらない生徒が多数いて、心の荒れにつながっていると思う。手作り弁当というが、冷凍食品をチンしている家庭が多い。是非中学校も給食を実施してほしい。（40代、女性）	保護者の立場からすると毎日のお弁当作りは大変なことだと思います（特に共働きの場合）。しかし、思春期を迎えた子ども達にとって家族のつながりは大切なことだと思います。お弁当は、そのつながりの大切なものの1つであると思います。ですから、各家庭で（負担ではあるでしょうが）作ってあげたらよいと思います。（40代、男性）
市町村によって実施している所、していない所の差が無い方がいいように思います。（30代、女性）	地域の実体にあった選択が大切だと思います。（20代、男性）
近年、市内の中学生の食事に課題が多々見受けられるようになった（欠食、偏食、孤食、弁当を作らない保護者等）。そのため、栄養バランスがとれていて、保護者負担も軽減される給食が望ましいが、実施へ向けての予算や中学校における指導面の負担等クリアすべき課題が多いと感じる。（50代、男性）	お弁当作りは親として大変ですが、親の義務でもあるかなと思います。また、子どもにお弁当作りを手伝わせることも子どもの自立への一歩となり生きた食育になると思います。給食実施へ予算を使うより、耐震、またクーラー設置等、環境整備に予算を使っていただきたい。（50代、女性）
実施することは、いいことだとは思うが、施設面で問題を感じる。また、中学校内での生徒指導面では問題は…。（50代、男性）	自分も自分の子もお弁当だったので、お弁当作りは親子の会話の一つにもなる。他市の中学給食の話や、小学校6年生の児童の様子からも、小学校と同じ給食では食べ残しの問題が懸念される。（50代、女性）

第３部　まとめ

食生活については、『朝食・昼食・夕食の 3 食をきちんと食べるように心がけている』との回答が、子ども・保護者・教職員のいずれでも高い割合を示していたが、小学生、中学生の実際の朝食の摂取状況をみると、『食べる日と食べない日がある』、『まったく食べない』との回答が、ともに合計 2 割以上を占めており、朝食の欠食状況が食生活の課題としてみられた。

食育については、『関心がある』、『多少関心がある』との回答が、市民、保護者、教職員いずれも高い割合を示しており、『家庭』での食育が望ましいとの意識が高くなっていた。

「給食が好きか嫌いか」については、小学生本人よりも小学生保護者のほうが、子どもは給食が『好き』であると回答している割合が 20%以上も高く、保護者と子どもの格差がみられた。

スクールランチの利用状況をみると、中学生では『(利用したことが) ある』が約 4 割、中学校教職員では約 6 割となっていた。スクールランチの課題については、『食べたことがないのでわからない』、『特に課題はない』などの割合が高くなっていたが、課題としては『価格が高い』、『量が少ない』などのほか、自由回答では『利用の仕方がよくわからない』、『友達がたのんでいないから、たのまない』などの回答もあり、スクールランチの利用方法などを周知し、より利用しやすくする工夫が必要であるといえる。

家庭弁当持参については、『内容や分量の調整』、『食物アレルギー対策』など、子どもたち個人に応じた対応に関することや、『家庭でのふれあい』といった食育の観点が利点としてみられたが、『品質管理』や『お弁当作りの負担』、『栄養の偏り』などが課題としてあげられている。これらの課題は、学校給食の利点で解決できるのではないかと考えられる。

中学校での学校給食実施については、市民、中学生保護者では『実施するほうがよい』、『どちらかというと実施するほうがよい』という意見が 7 割、8 割と大半を占め、特に小学校保護者においては 9 割以上を占めることとなった。その理由では、『お弁当作りの負担の軽減』、『食育を重視するため』、『栄養面の充実』をあげるものが多かった。一方、同じ設問において、小学生、中学生、中学校教職員では『実施するほうがよい』、『どちらかというと実施するほうがよい』の意見が過半数を下回っていた。その理由として小学生、中学生では、『お弁当の方が好きだから』という回答が最も高い割合を示していたほか、中学生の自由回答では、『休み時間が少なくなる』、『食べ残しが増えそう』などの意見もみられた。また、中学校教職員の意見では、『給食費の滞納問題』、『給食へのいたずら』、『給食に時間がとられ、他の活動時間がへる』などの給食の実施にともない課題とされる意見が多くみられた。

岸和田市
中学校における昼食に関する市民意識アンケート
調査結果報告書

発行　岸和田市教育委員会　教育総務部総務課
〒596-8510
大阪府岸和田市岸城町７番１号
電話　072-423-9508